

平成23年1月～10月 V o 1. 1～78

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～

総集編



医療事業部 医療安全課

次は 目次です！！



医療安全・知恵の輪！



～医療機器安全編～

目次

- ☆・巻頭言
- 1・日本赤十字社医療センター
- 2・横浜市立みなと赤十字病院
- 3・長野赤十字病院
- 4・姫路赤十字病院
- 5・旭川赤十字病院
- 6・熊本赤十字病院
- 7・石巻赤十字病院
- 8・名古屋第一赤十字病院
- 9・北見赤十字病院
- 10・大津赤十字病院
- 11・秋田赤十字病院
- 12・静岡赤十字病院
- 13・飯山赤十字病院
- 14・広島赤十字・原爆病院
- 15・武蔵野赤十字病院
- 16・日本赤十字社和歌山医療センター
- 17・さいたま赤十字病院
- 18・大分赤十字病院
- 19・釧路赤十字病院
- 20・松山赤十字病院
- 21・足利赤十字病院
- 22・大阪赤十字病院
- 23・大田原赤十字病院
- 24・京都第一赤十字病院
- 25・福島赤十字病院
- 26・松江赤十字病院
- 27・仙台赤十字病院
- 28・高知赤十字病院
- 29・古河赤十字病院
- 30・高松赤十字病院
- 31・伊達赤十字病院
- 32・庄原赤十字病院
- 33・八戸赤十字病院
- 34・沖縄赤十字病院
- 35・水戸赤十字病院
- 36・益田赤十字病院
- 37・山梨赤十字病院
- 38・徳島赤十字病院
- 39・津久井赤十字病院
- 40・福岡赤十字病院
- 41・芳賀赤十字病院
- 42・鹿児島赤十字病院
- 43・小清水赤十字病院
- 44・山口赤十字病院
- 45・成田赤十字病院
- 46・日本赤十字社長崎原爆病院
- 47・富山赤十字病院
- 48・三原赤十字病院
- 49・盛岡赤十字病院
- 50・浜松赤十字病院
- 51・諏訪赤十字病院
- 52・唐津赤十字病院
- 53・栗山赤十字病院
- 54・裾野赤十字病院
- 55・深谷赤十字病院
- 56・鳥取赤十字病院
- 57・清水赤十字病院
- 58・長浜赤十字病院
- 59・大森赤十字病院
- 60・岐阜赤十字病院
- 61・安雲野赤十字病院
- 62・多可赤十字病院
- 63・浦河赤十字病院
- 64・名古屋第二赤十字病院
- 65・前橋赤十字病院
- 66・金沢赤十字病院
- 67・小川赤十字病院
- 68・山田赤十字病院
- 69・秦野赤十字病院
- 70・高山赤十字病院
- 71・長岡赤十字病院
- 72・岡山赤十字病院
- 73・福井赤十字病院
- 74・京都第二赤十字病院
- 75・伊豆赤十字病院
- 76・神戸赤十字病院
- 77・下伊那赤十字病院
- 78・高槻赤十字病院

医療安全・知恵の輪！



～医療機器安全編～

巻頭言

医療安全知恵の輪「医療機器安全篇」冊子を発刊するに当たって

日本赤十字社臨床工学技士会
会長 熊谷 誠
(秋田赤十字病院)

平成19年4月1日の医療法の改正に伴い、「医療機器に係わる安全確保のための体制の確保」が規定され、医療機関に対しは医療安全対策が求められるようになり、特に臨床工学技士の重要性がさらに高まり、医療機器管理部門に臨床工学技士の配置が全国で進みました。また医療機器が安全かつ効果的に使用されると同時に、その保守管理が適正に行われるためには、医療機器の操作および点検に関する教育が必要なことは誰もが認めるところであり、その中で複数の業務を抱えながら、臨床工学技士は日々努力されているものと思われま

す。今回、昨年より本社医療事業部医療安全課より依頼のありました医療安全知恵の輪「医療機器安全篇」全78施設分が終了したことから、日本赤十字社臨床工学技士会では、それぞれの施設における医療機器管理の工夫が満載されている貴重な情報を、冊子にすることに致しました。

つきましては本冊子が全国赤十字病院の医療安全に少しでもお役にたれば幸いです。

最後に、企画を頂きました本社医療事業部医療安全課、また、「医療機器安全篇」の取りまとめを担当した齊藤郁郎（日本赤十字社医療センター）様に感謝申し上げます。

平成23年11月

医療安全・知恵の輪！



～医療機器安全編～

日本赤十字社医療センター 医療技術部
臨床工学技術課 齋藤 郁郎

Tel 03-3400-1311 E-mail saito_ikuo@med.jrc.or.jp

臨床工学技士は医療機器のスペシャリストとして、医療機器の操作及び保守点検を行っています。
日本赤十字社医療センターに臨床工学技士は16人在職しており、
【Ⅰ係】血液浄化チーム
【Ⅱ係】手術・集中治療室・心臓カテーテルチーム
【Ⅲ係】医療機器管理(MEセンター)チーム
の3チームに分かれ安全な医療の実現に向けて取り組んでいます。



【2010年1月に開院した新病院】

ウチの一押し！ ～医療機器編～

MEセンターでは専任の臨床工学技士を配置し、医療機器の中央管理を行っており、当直制も導入しています。
点検を終えた機器には点検日が記載されたテプラを貼っています。テプラには4色あり、1～3月は白(雪)、4～6月は緑(新芽)、7～9月は青(海)、10～12月は黄(紅葉)と区別し、これにより一目見ていつ頃点検を行ったかわかるように工夫をしています。
新病院ではMEセンターの正面に「機器搬送優先エレベータ」を設置し、人工呼吸器等の運搬距離を短くするように設計されました。
また、院内全体に「小型搬送機」が整備され、血液製剤や医薬品、検体の搬送の他に「医療機器」の搬送にも大いに活躍しています。

点検済 ME
10/01/29

点検済 ME
10/04/01

点検済 ME
10/08/23

点検済 ME
10/10/1

【季節ごとに変わる点検済テプラ】



【小型搬送機ステーション】

医療機器安全管理者ともっとクロス

毎年、新しく入职した職員を対象に「セーフマスター」(医療安全集中管理システム)から実際に起きている事例を分析し、輸液・シリンジポンプの安全な取扱い方法を看護部と連携を取りながら、勉強会を開催しています。
血液浄化関連では、患者管理の方法や管理が難しい体外循環のトラブル対応をテーマに、定期的に勉強会を開催しています。
呼吸器関連では、技士が呼吸療法サポートチームに参加し、患者シミュレータを用いた人工呼吸器のトラブル対応法等、呼吸管理の周知活動等にも積極的に参加しています。



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



横浜市立みなと赤十字病院 医療技術部 医療技術課 皆川 宋輝

Tel.045-628-6100 E-mail minagawa.me@yokohama.jrc.or.jp

当院は、人口360万人を超える横浜市の中核病院であり、昨年APECでも話題となった、みなとみらい地区に隣接しています。人口が密集していることもあり、当院では様々な急患が搬送され、その中には我々MEが活躍する急性血液浄化や緊急の心臓手術、PCPS、IABPも多く含まれてます。

日常業務から急患対応まで忙しい日々ではありますが、ME6名一丸となって患者様の治療や医療機器のサポートを行っています。



【みなとみらい地区】



【横浜市立みなと赤十字病院】

ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院MEセンターでは機器の動作チェックを確実にを行うために多くの点検用機器を保有しています。

各医療機器の動作チェックを行うために必要なシミュレータを適切に使用することにより、新人MEからベテランMEまで高い信頼度の点検を行うことができます。

多くの点検用機器があることから、新人MEの最初の教育は各種点検用機器の使用方法をマスターすることから始まります。



医療機器安全管理者ともっとクロス

当院の医療機器安全管理責任者は臨床工学技士です。

新人看護師に対する「医療機器の安全管理」等の研修会や、全職員を対象とした「医療機器についての研修会」も年一回行っています。また、毎月行われるリスクマネージャー委員会では、医療機器のミニレクチャーを行い、医療機器についての情報提供・注意喚起を行っています。

一番難しく感じていることは、医療機器の安全確保をするため、押しつけではなく医療機器に対して自発的に関心を持ってもらう環境作りです。大変難しいテーマですが、看護部、医療安全推進課、調度課、各診療科の皆様にご助言を頂きながら、医療機器の安全管理に取り組んでおります。

【MEアイデア修理】



Edwards Lifesciences Aライン用0点センサー電池ボックスの電極破損ですが、メーカーは修理対応をしていない為、我々MEで修理を試みました。

準備したのはホームセンターなどで100円程度で販売されている電池パネです。

電池パネの固定は、はめ込むだけで接着剤や半田等は使用しませんが、はめ込むのに少しコツが要ります。一度入れれば簡単には外れません。後は電池を入れれば写真のように正常動作し、レーザー光が出ます。

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～

長野赤十字病院
臨床工学技術課

医療技術部
阿部 秀次



TEL 026-226-4131 E-mail hd-c@nagano-med.jrc.or.jp

長野赤十字病院臨床工学技士の業務紹介

臨床工学技士は現在13名在職しております。
血液浄化全般・人工心肺、OP業務管理、
中央ME機器管理室の3分野に分かれ、より安全
な医療機器使用に向けて日夜邁進しております。



【築28年目を迎えた当院！】

ウチの一押し！ ～医療機器編～

透析センター・人工心肺業務・ME機器管理室は365日24時間拘束体制で緊急対応を行っています。
機器点検、安全管理、中央ME機器の各分野に安全使用管理等の専任の臨床工学技士を配置しております。
中央ME機器管理室において、一例として点滴スタンドに、シリンジポンプ8台を搭載し、中央手術室にて同時使用出来るようにセットして機器の貸出しを行っています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

新任職員を対象に医療機器の安全な取扱いができるように、心電図モニター、人工呼吸器、輸液ポンプ等の取扱いについて看護部、医療安全推進課と連携をとりながら、勉強会を開催しています。また、救命救急センターにおいては、血液浄化装置関連、人工呼吸器等の個別勉強会を行い、医療機器の安全使用に協力しています。

末梢血幹細胞採取



ME機器管理室



人工心肺準備中



血液浄化センター



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



姫路赤十字病院 臨床工学技士 三井 友成

TEL 079-294-2251 E-mail me-sits@hrc-hp.com

姫路と言えば、世界遺産、国宝「姫路城」です。大天守は、築城から400年以上の歳月を重ねています。現在、5年間の本格的な修理中で工事用の足場に囲まれています。昭和の解体復元工事から45年が過ぎ、漆喰壁をはじめ上層部の軒やひさしを修復しているようです。平成26年には、綺麗になった姫路城がお披露目される予定です！

ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院には、クリニカル・スキルス・ラボ(医療技能研修室)があります。スキルス・ラボは臨床教育の基本的な手技の演習やチーム医療の一員としての技法の体得を目的としており、24時間いつでも自主的に実習できるよう、様々な学習機材を備えた施設です。

ラボでは、二次救命処置のトレーニングや挿管、採血、筋肉注射、中心静脈穿刺、導尿、吸痰、縫合、内視鏡手術、上部・下部内視鏡などの基本的な手技に関する各種シミュレーターの研修ができます。



医療機器安全管理者ともっとクロス

医療機器の安全対策として、機種統一（種類を減らすこと）が有効な手段の1つであります。

当院では、医療安全全国共同行動に習い医療機器の機種の低減に取り組んでいます。

機種を減らすと言っても簡単にはいきません。そこで、病院全体で機種ごとに再分配と計画的な更新をして部署ごとに機種統一できるように工夫いたしました。3年の月日を要しましたが、結果的にICU、小児病棟、成人病棟で人工呼吸器の機種統一と輸液ポンプの機種の削減が出来ました。

臨床工学技士が医療安全に関わり、医療機器を通じて安全で安心な医療に貢献できることがたくさんあります。日本赤十字社のなかにも臨床工学技士会が発足しましたので、他施設ともっとクロスしていきたいと思います。

医療機器安全管理者から一言

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



熊本赤十字病院 臨床工学課 村上 智章

TEL 096-384-2111 E-mail me-center@kumamoto-med.jrc.or.jp

熊本で思い浮かぶのは阿蘇、熊本城などでは？でも、忘れちゃいけないのが「田原坂」！日本最後の内戦「西南の役」の戦火の中で、人道、博愛の熱いところざしを掲げた博愛社（日本赤十字社の前身）はこの地で産声をあげました。そのところざしに負けない様に本院臨床工学技士もさまざまな部門で頑張っています。

2年後には新救命救急センター及び子供医療センター（P-I C U）もオープン予定です。

我々の業務もますます充実させる予定です。



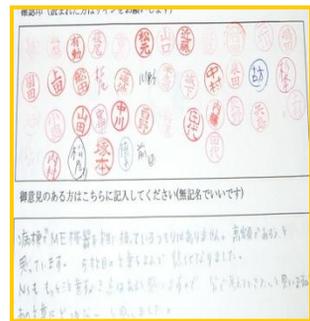
2年後には新救命救急センター
P-ICUが完成します。



ウチの一押し！ ～医療機器安全編～

【田原坂】

当院でME機器の中央管理が始まって12年余。病院の規模と共に、業務範囲も拡大し、院内隔々にまで情報の周知を図るのは一筋縄ではいきません。そこで当センターでは、2000年より「ME新聞」を年2回のペースで発行し、医療機器に関する情報提供を行っています。創刊から10年、病棟でもお馴染みです。新聞にはアンケート用紙を添付し、双方向での情報交換も行っています。病棟で機器を扱うスタッフからの率直な意見は、我々の業務改善にも役立ちます。とかくパーペラスが追求される風潮もありますが、忙しい業務の合間でも気軽に目を通して貰える、新聞という、紙の媒体は見直されても良いかもしれません。右の写真には、ME新聞を読んだよ！という印鑑がずらり。



医療機器安全管理者ともっとクロス

毎週火曜日朝8：45からMRM委員長を含め総勢12名のメンバーによる医療安全委員会が行われています。各部門からヒヤリハット、アクシデント報告があり、医療機器関係についてはMEセンターで対策をとっています。たとえ小さなヒヤリハットでも人工呼吸器における事故防止対策は行っています。今回はあえて細かな気配りで工夫している点を紹介します。例えば、加温・加湿チャンバー自動給水点滴ラインの通気孔「開」忘れがあれば開孔の表示！呼吸器装着時は必ず確認する様に回路先端にチェック表、注意喚起のパネルを付ける。また、看護師さんからの素朴な質問には回答書を利用した書面での回答も行っています。



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



石巻赤十字病院 臨床工学技士 小山 祐一

Tel 0225-21-7221 E-mail me@ishinomaki.jrc.or.jp

あいさつ …

宮城の正月料理といえば、ナメタガレイの煮ものと、今はめっきり少なくなりましたが、焼きハゼの雑煮といったところでしょうか。

石巻は北上川河口の町で焼きハゼの産地でもあります。この時期、伝統的手法の炉端で焼くハゼが冬の風物詩として新聞やテレビなどで紹介されます。

今回は医療機器安全編ということで石巻赤十字病院・臨床工学技術課MEセンターを紹介します。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

臨床工学技術課には技士が21名います。このうち医療機器管理は、主に臨床工学技術係の6名が担当しています。当係は手術センター、救命救急センター、人工心肺操作などの業務も兼務しますので、実質1日2名が、時差出勤で朝8時半から夜7時半まで土日を含め毎日業務を行っています。それ以外の時間は、PHS待機(来年度から当直開始予定)としています。

当院の医療機器は、輸液・シリンジポンプや人工呼吸器など管理機器全てにバーコードを貼付し、「使用(貸出・返却)」、「点検」、「修理」の履歴をPC管理しています。

医療機器は必要とする機能を備え、正しく使われ、正しく作動することが安全の基本と考え、「単回使用の徹底(使いまわしの禁止)」と「使用後の清掃・点検の充実(点検未実施機器は貸出時にPCの許可が下りない設定)」や「安全使用勉強会」を毎週実施しています。

担当技士は全員が内部点検も可能なメーカーライセンスを取得しました。

ウチの一押しはこの「安全にこだわる粘り強さ」かな！



医療機器安全担当者ともっとクロス

MEセンターでは医療機器購入計画に積極的に参加しています。出来る限りデモ機を取り寄せエンドユーザに機能、安全性、使用感などを評価してもらうほか、必要があれば患者様から直接「作動音」や「ランプ光量」など満足度の聞き取り調査も行います。

もう一つ、気づきを促す意味で輸液・シリンジポンプに「安全確認:1.流量、2.運転、3.接続」と書いたシールを貼ってみました。これは流量設定ミス、運転スイッチの入れ忘れ、ラインの接続ミスなど重篤な事故につながる可能性のある1, 2, 3をベッドから離れる前にもう一度確認してもらうもので、MEセンターの総力を挙げてキャンペーンを打ち、2週間にわたり全貸出機に協力依頼のチラシを添付しました。「うっとうしい」と非難を浴びましたが、印象深かった分、効果があった???と考えています。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療安全課

事故って「後で見ておこう」とか「後で注意しておこう」

としたときに、よく起きてしまいますね。

…医療安全管理担当者からの一言…

次は 北見赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！



～医療機器安全編～

名古屋第一赤十字病院 臨床工学技術課 服部 敏之

TEL 052-481-5111 E-mail me@nagoya-1st.jrc.or.jp

当院は名古屋市西部の中心にあり、愛知県の基幹病院として常に医療施設を整備し、地域医療支援病院として急性期医療の中核病院の役割を果たしています。平成15年度から第3次救急医療が開始され、医療体制も強化されました。

臨床工学技士も平成18年10月より、当直体制を発足させ、現在スタッフ13名で緊急に即時対応できるように日々頑張っております。



【平成21年に完成した病院全貌】

ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院MEセンターでは、機器管理に専用管理ソフト「CEIA」を導入し、バーコードによる管理などに活用しています。

vol.1の日本赤十字社医療センターさんと同様に、当院も独自のステッカーを作成して運用しております。



一般的な
定期点検用



プラスチック製剥がせ
る人工呼吸器などの
始業点検済ステッカー



人工呼吸器
定期点検用

医療機器安全管理者ともっとクロス

MEの医療安全とは機器の維持管理や取扱い講習などが主に考えられますが、電気や医療ガス、水道等のライフラインに対するものもあります。

一昔以上前の当院事例ですが、一つの無停電コンセントにテーブルタップ4本で直列接続を含むタコ足配線にて4台の人工呼吸器+医療機器を接続したため、電気容量以上の使用となりブレーカーが作動し、全台停止した事例を記憶しております。当事者は「無停電だから大丈夫」と考えたようです。

多くの医療職種の方々は臨床工学技士のような電気の専門家でなく、ショートと漏電の違いや無停電電源の本質を理解せずに使用しており、知識不足による単純なミスで医療事故が起きないように、施設管理課などと協力して、理解を深めてもらう必要があります。

【ME室での低電力医療機器充電のアイデア（これもイチ押し！）】



レールコンセントを
棚板下の
梁に取付け



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



北見赤十字病院 臨床工学技士 好井 透
Tel 0157-24-3115 E-mail tooru_yoshii@kitami.jrc.or.jp

日本赤十字社臨床工学技士会が発足し全国の技士の方々と
お会いする機会が増えて感じたことは・・・ 北見の知名度が低い！
知床、網走と言うと皆様、ピンッとくるようなのですが・・・

北見は玉葱、焼肉が有名な道東、オホーツクの中核です。
皆様お見知りおきを・・・



北見名物(?)「厳寒の焼肉まつり」

ウチの一押し！ ～医療機器編～

医療機器についても添付文書、取扱説明書の管理が
謳われるようになりましたが、紙媒体で院内各部署、い
つでもどこでも閲覧可能に管理することは不可能です。

そこで当院では“IT化”を進めてきました。現在では、
臨床工学課で管理している医療機器のほとんどの上記
文書を各部署端末、イントラネットで閲覧可能です。

今後は管理機器以外の院内医療機器全てにおいても
IT化を推し進め、事務イントラ管理の方にご協力願
いページ内検索機能等、充実させていきたいです。



医療機器安全管理者ともっとクロス



注意喚起シールが
いっぱいこの当院のポンプ

2年前の「知恵の輪」でもお伝えしましたが、当院では医療
安全全国共同行動に参加し「自動ポンプ」について取り
組みました。2年間隔月で研修会を行い、全看護職員の
80%が受講しました。その効果か、今ではヒューマンエ
ラーと思われるトラブルはほとんど報告されなくなりました。
現在も研修会は年3回のペースで継続しており、全員が3
年に一度は必ず再研修を受講するシステムを構築したい
と考えています。将来的には各部署に数名の「自動ポンプ
認定者」を配置し、適切な初期研修を各部署で行えるよ
うにしていきたいと考えています。

医療機器安全管理者としては、他の装置についても同様
に取り組んでいきたいと思っております。



医療安全部会での
医療安全ラウンドの様子

臨床工学技士になった時からスタートしていたのだと思
いますが、医療機器安全管理責任者となり改めて医療安全というゴール
のないレースに参加している重みや不安を感じております。途中
リタイヤしないためにどうやってモチベーションを保つかが肝心
なところだと思いますが、そのためには同じ環境の仲間が存在が
大きなものになると思いますので、全国の技士の方々ともっとク
ロスして行こうと思います。

医療機器安全管理者から一言

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～

大津赤十字病院 臨床工学技術課 正圓 浩史

TEL 077-522-4131 E-mail gijyutu@otsu.jrc.or.jp



大津は滋賀県にあり、当院は琵琶湖の湖南に位置し、豊かな自然に囲まれた環境にあります(何も無いってことですけど・・・)

使用許可病床数824床 診療科目26科を有する県内最大の病院です。

総合周産期母子医療センター・基幹災害医療センターを有し、更に地域医療支援病院・癌診療連携拠点病院としての命を受け、滋賀県内医療の中核として、日々活動しております。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

各病棟ごとに担当MEを決めることで病棟ナースとの連携がスムーズになり、日常的にその病棟で使用するME機器に関する取り扱い方法の説明や、トラブルを円滑に解決できる体制を取っています。以前は、担当する病棟により、取り扱う機器に差があり、その担当者以外では対応しにくいといった問題点がありました。そこで病棟担当者にサブをつけることにより、病棟担当者が不在のときでも、サブが対応し、業務に支障が出ない体制を整えています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

- ・最近では院内で発生したME機器に関するインシデント・アクシデント事例を月に一回検討する機会を設け、m-shellにて事後対策及び予防策を講じ、結果をマニュアル等に反映するようしております。
- ・定期的に各自の持ち回りによるMEセンター内勉強会も行っており、技術・知識の向上に励み、それを医療機器管理および業務に生かしております。
- ・今後はDMAT等の院外活動にも積極的に参加することを目標としております。



今年度よりステントグラフト業務に携わっています。



医療事業部 医療安全課

当院では昭和53年より医療機器の中央一括管理を行っております。シリンジポンプ 約220台 輸液ポンプ 約150台を有しているため、点検済みのものと未点検のものが混在しないように、貸し出し専用棚と、返却専用棚を設けています。

次は 静岡赤十字病院からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



秋田赤十字病院 臨床工学課 熊谷 誠

TEL 018-829-5000 E-mail akrcme@archosp-1998.com



全国赤十字医療施設の皆さま、こんにちは！

さて昨年末に東北新幹線が新青森駅まで全線開通したことで、東北地区で東京から最も遠い県となってしまいました。

その秋田と言えば、なんといっても「竿燈まつり」と「なまはげ」が代表ですね。

また代表的な食べ物に「きりたんぼ」と「稲庭うどん」がありますが、この寒い時には絶品ですので、是非秋田にお越しの際はご賞味下さい(特に稲庭うどんは絶品ですよ～)。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

昨年に臨床工学課で取り組んだ業務改善を紹介致します。

1. セントラルモニタ中央管理を実施
従来は各病棟で管理していたことから、故障や不具合が生じた場合は管財からメーカ（業者）に連絡し対応していたが、臨床工学技士が窓口になったことで迅速な対応が出来る様になった。
2. モニタ関連消耗品の中央管理を実施
一般病棟で7種類のディスプレイ電極が納入されていたので、成人・小児用の2種類に統一することでコスト削減に貢献した（新生児病棟は除く）。
3. セントラルモニタの機種統一を実施中
機種を統一することで、病棟で急にモニタや送信機が必要になった場合は、MEセンターから貸出しを行っている。また必要に応じてチャンネルの設定も行っている。

医療機器安全管理者ともっとクロス

医療安全幹事の病棟ラウンド

当院では不定期ですが昨年から力を入れているのが、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・臨床工学技士などの多職種で、各部署や病棟でラウンドを実施し感染防止対策や5S活動などを行うことで、様々な角度から意見が出され活動前から比べるとかなり改善され、昨年の病院機能評価受審後も継続されています。

医局・看護部・事務部との連携（毎年開催の説明会）

研修医への「人工呼吸器の安全使用」

新入看護師や病棟・外来看護師への「輸液・シリンジポンプの安全な取扱い」



日本赤十字社臨床工学技士会が平成21年に発足しました。それ以後の全体研修会やブロック研修会では、業務に対しての意見や相談、また病院内で抱えている悩みなど、病院の垣根を超えて交流が出来ます。今後この技士会を通してもっとクロスして少しでも医療安全に貢献したいと思います。

(当院の臨床工学技士は全員で医療安全に貢献！)



医療機器安全管理者から一言



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



静岡赤十字病院 臨床工学技士 田形 勝至

TEL 054-254-4311 E-mail ce@shizuoka-med.jrc.or.jp

静岡といえば、温暖な気候と、美味しいお茶です。昨年10月には、徳川家康公を祀る全国初の神社である久能山東照宮（静岡市内）が国宝に指定され、多くの観光客で賑わっています。私も昨年暮れに小学校の遠足以来、四十年ぶりにお参りに行ってきましたが、年末ジャンボが当たるとい様なご利益はありませんでした。もう一つ静岡といえば地震です。東海大地震が起こるといわれ、早30年以上が経ちます。未だに起きていないのでホッとしていますが、みなさんの病院、地震対策はお済みでしょうか？ 当院は平成23年4月から、3年計画で病院建築が始まります。建築に併せ、ME機器だけではなく、ポータブル撮影装置などの大きな器材を使用する手術室、救急病棟などの地震対策を再度見直す予定でいます。



平成26年完成予定の静岡赤十字病院本館

ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院では、医療機器の安全管理に関して常に医療安全推進室との連携を図り、患者さんに安全な医療を提供するための対策を取っています。

自動輸液ポンプ、シリンジポンプ、低圧持続吸引器、人工呼吸器（小児用は除く）等の医療機器は機種統一され、使用時のリスク回避を図っています。また、人工呼吸器の管理については、一般病棟で使用する場合は、必ずナースセンターから見える部屋に特定し、呼吸器のアラームとナースコールが連動する仕組みを導入しています。その他、緊急時に備え臨床工学士が24時間オンコール体制をとっており、夜間・休日の人工呼吸器のトラブルに関しては、電話対応で済ませず、必ず現場に一度出向いて点検をする体制になっています。また人工呼吸器の設定オーダーに関しては、院内共通の統一された書式を作成し使用しています。



ナースコールとアラームの連動



左・落滴制御 右・回転制御

最近、PVCフリーの輸液セットを使用する薬剤が増えています。当院では適正な輸液セットを使用するため、PVCフリーでフィルター付きの特殊なセットなどを使用する場合は輸液ポンプと一緒に臨床工学課から払い出しをしています。特に注入の正確さを求める抗がん剤などは、特殊薬剤専用機種を設け、注入モードを20滴・60滴の落滴制御ではなく、JC-JYという回転制御モードに内部設定を変換して、誤差が少ないよう工夫しています。

医療機器安全担当者ともっとクロス

院内における医療機器の安全な使用に関しては、医療機器の保守点検はもちろん、医療機器を使用するための情報の提示や教育・研修の実施に重点を置き、実際に機器を使用する医師や看護師との連携の強化を図っていきたく思います。改築後の医療機器の管理についても積極的に提言していきたく思います。

～医療機器安全編～



飯山赤十字病院 臨床工学技術課 高澤 広一
Tel 0269-62-4195 E-mail me@iiyama.jrc.or.jp

・・・あいさつ・・・

当院のある飯山市は長野県の最北部に位置し、県下でも有数の豪雪地です。周りはスキー場や温泉などの観光地。春・夏・秋はトレッキング、冬はスキーにスノボ、行政も森林セラピーに力を入れ、当院でもその一端を担っています。また、当院のすぐ目の前に新幹線の駅もできる予定で、より利便性が高まります。県最北部の中核病院(240床)として、赤十字精神のもと、その役割を担っています。

ウチの一押し！ ～医療機器編～

医療機器の安全について、当課で取り組んでいる対策について紹介いたします。

①仕事前、事故防止の為に【指差し・声だし確認の喚起】 ②コンセント部に差し込んである人工呼吸器・加湿器の電源プラグに、ラベル付けをしている。壁コンセント、多穴のタップに差し込んであるプラグ、どれがどれだかわかりますか？



今日も安全で行こう！
ヨシ！！

医療機器安全管理者ともっとクロス



当院には医療安全委員会（MRM委員会）があり、各部門の委員と協力して医療安全に取り組んでいます。医療機器安全管理者としては安全を押し付けるのではなく、お互いに話し合い、納得した上で実行することとしています。その1つに看護部と取り組んでいる医療機器の安全対策を紹介いたします。病棟での輸液ポンプ・シリンジポンプの使用中の機器の点検、皆さんはどのようにしておられますか？・・・当院では【輸液・シリンジポンプ使用中点検表】を作成しました。開始時、切替時、勤務交替時に看護師が2人でダブルチェックを行います。

医療機器安全管理者から

「・・・もっとクロス！し～やがれ～・・・」
当院でもいろいろな方策を立て、より安全を目指して活動していますが、その方策を実行するには、普段からいろいろな職種とのコミュニケーションが大切です。周りの皆さんの知恵を拝借して、よりよい安全を患者さまに提供するためにも、もっと、もっと、も～っと・・・クロスし～やがれ～・・・
クロスメールまってるぜ！

医療機器安全管理者から一言



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



広島赤十字・原爆病院 医療技術部 臨床工学課

TEL 082-241-3111 E-mail me@hiroshima-med.jrc.or.jp

広島と言えばやっぱり宮島と原爆ドームですね！？そんな広島市中区に病院はあります。臨床工学技士は11名を3つのグループにわけて頑張ってます（透析部門・ME機器管理部門・OP/ICU部門）。当直体制をとって時間外の機器対応・臨床支援も行っています。2年前から循環器関連の業務も加わり、業務が増えましたがスタッフみんなで頑張ってます。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

機器管理は中央管理にして稼働率の向上に努めています。安全管理が重要になっている時代なので、看護師・ドクターとも協力しながら、安全情報・研修会にも積極的に取り組んでいます。当直では、時間外の臨床支援・機器の貸し出しを中心に頑張ってます。少し変わった業務かもしれませんが、小児科の成長ホルモン注射器の取扱い説明、院外貸出機器（血糖測定器・吸引器・微量シリンジポンプ）の管理、中央材料室のオートクレーブ・EOG滅菌器等の修理・管理などもあり、多種多様といった感じです。



医療機器安全管理者ともっとクロス

医療安全全国共同行動にも積極的に参加し、輸液ポンプ・シリンジポンプの看護師認定制度を看護部の協力のもとで取り組んでいる最中です。入院時の患者様向けの機器取扱い説明書も作成し、患者様にも協力していただいたり、各医療情報機関からの最新情報をいち早く察知し、各病棟へのお知らせビラの作成・回収等の該当機器調査の報告等を行っています。看護部の医療機器担当者と2ヶ月に1回は双方の要望を出し合い、検討・対策を行い、毎月1回リスク担当看護師と一緒に輸液ポンプ・シリンジポンプのラウンドも行っています。（1日で2病棟）

ME・循環器関連の明るく仲間で～す！

高気圧酸素治療室で～す！

透析室、フレッシュな2人で～す！



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



武蔵野赤十字病院 臨床工学技術課 時岡 伸行
Tel 0422-32-3111 E-mail metoki@musashino.jrc.or.jp

私たち武蔵野赤十字病院 臨床工学技士は、緑あふれる武蔵野の地で日々医療安全を目指し医療機器の保守・点検・操作・臨床業務にあたっております。臨床工学技術課は技士数15名、業務員4名、パート1名で構成され、血液浄化(透析センター)に技士5名、パート1名 MEセンターに技士10名、搬送業務に業務員2名 内視鏡室センターに業務員1名 医療機器外機器管理に業務員1名にて日々明るく楽しく業務にあたっております。



【緑にかこまれた病院！】

ウチの一押し！ ～医療機器編～

当課は46年前から医療機器の中央管理を行っており、現在の高度な医療に対応するべく日々進歩しつづけております。

現在はシフト勤務制を取り入れ24時間対応で業務にあたっております。(心カテ・PCPS・人工呼吸器セッティング・機器トラブル対応など日常業務に近い対応)

医療機器の使用は1患者1使用を目指し、当課業務員により定期的にラウンドを行い使用後の医療機器の回収にあたっており、効率のよい機器の運用を行っております。

また医療機器使用要請時にも業務員が搬送しており、看護業務支援にも対応しております。(一部医療機器搬送・夜間は技士にて行っている)

また当課は5S活動にも力を入れており、医療機器置き場の指定席化・機器の流れの一方通行制などを導入して働きやすく機能的な職場作りを目指しております。

また5S活動の一環として消耗品等の管理は、SPDを導入しており不要な在庫を持たないようにしております。

医療機器安全管理者ともっとクロス

毎年、入職者に対して呼吸療法チームの一員として呼吸管理の教育を行っています。(紙芝居方式)呼吸療法サポートチームに参加し、他職種と意見交換を行い最善の呼吸療法を検討しています。

また定期的に医療機器の取り扱い説明会(勉強会)を開催しています。

医療安全推進室と協力し、医療機器の標準化に参加しております。

血液浄化に関して他職種と定期的にカンファレンスを行い情報を共有しています。

イントラネットを利用し、MEチャンネルという情報紙(医療機器情報)を発行しております。

病棟からの要請に対応し、生命維持装置の取り扱い勉強会を不定期に開催しております。

事務系職員に対して現場での医療機器の使用に関する説明を行い、日々請求している消耗品等の利用目的を把握して請求漏れ等無いよう説明しています。

私たちの仕事道具は文房具を除けば、ほとんどが医療機器の範疇に入ります。多岐にわたる医療機器を有効に活用して、医療の安全性や質が向上することを願っています。そのためには医療機器を扱うすべての職員の知識・技術そして何よりも安全意識の向上が必要です。皆様のご協力を得ながら、日々努力です。
医療機器安全管理責任者 斉藤裕(本業は麻酔科医)

医療機器安全管理者から一言

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



日本赤十字社和歌山医療センター
臨床工学技術課 前田 充徳

TEL 073-471-0463 E-mail ce-maeda@kankyo.ne.jp



和歌山は温暖な気候に恵まれ、自然もいっぱい、海の幸、ラーメン、みかん、梅などおいしいものもたくさんあります。皆様、是非、和歌山へお越しください。

当センターは新本館稼働を目前に控え、ぶんだら祭りの際の結束力で職員一丸となり頑張っています。

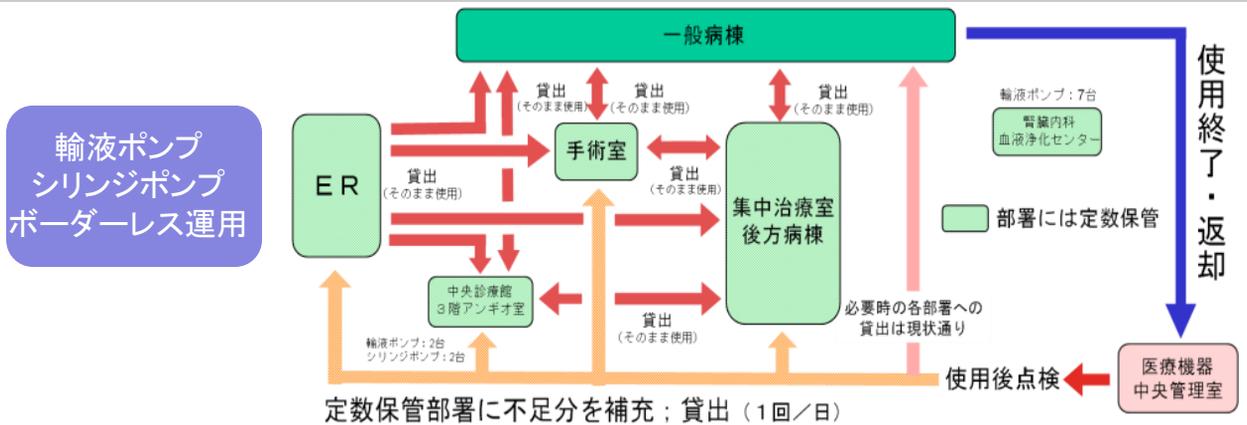
現在、臨床工学技士は11名在職しており、血液浄化業務、手術室業務、集中治療室業務、心カテ室業務、医療機器管理業務、高気圧酸素療法業務、ペースメーカー・ICD業務、RST業務を行っています。

本年5月9日、新本館稼働



ウチの二押し！ ～医療機器編～

- 今まで輸液ポンプ・シリンジポンプは部署別に管理しており、患者が他部署へ移動のつど交換していましたが、昨年10月より交換せずに使用するシステムに変更しました。(下図) これにより①交換の手間がかからない②設定ミスを防げる③使用予定のない機器を持ち込むことで生じる機器の不足や保守管理の問題点が解消できる、などの利点があります。変更後、部署移動に伴う機器のインシデント・アクシデントレポート報告は出ていません。
- 緊急時の対応として当直制を導入しています。当直時のルーチン業務としては、術後疼痛緩和用ポンプの準備、使用後点検、ラウンド、人工呼吸器のラウンド、血液浄化センターの早出プライミングを行っています。なおこの当直制は、病院機能評価時に医療安全の面で評価されました。



医療機器安全管理者ともっとクロス

MSM委員会、MSMワーキンググループに参画し、医療機器に関する報告から問題点を抽出、分析し対策を行っています。院内感染対策チームにおいても医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師と共に感染防止策を図っています。

昨年からはRSTや透析機器安全管理委員会の一員として他職種と組織横断的な活動をしています。

他にも院内において職員を対象に各種医療機器に関する講習会を適宜開催しています。また和歌山赤十字看護専門学校で学生に医療機器の原理、輸液ポンプ・シリンジポンプについて講義を行っています。



RSTの病棟ラウンド風景



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



さいたま赤十字病院 臨床工学技術課 鎌田 晋治

TEL 048-852-1111 E-mail omiya.jrc.-hisyo@jcom.ne.jp

さいたま市は、2001年5月に政令指定都市に指定され、同時に当病院名も「大宮赤十字病院」から「さいたま赤十字病院」と改称されました。

市内には、浦和レッズのホームさいたまスタジアムやマニアに人気の鉄道博物館、そしてさいたまスーパーアリーナがあり、ここでは格闘技やコンサートなど多くのイベントが開催されています。

【病院より臨むさいたまスーパーアリーナとさいたま新都心】

ウチの一押し！ ～医療機器編～



集中治療室では多くの医療機器が使用されています。中でも生命維持管理装置の電源供給は重要で、無停電電源への接続確認と、間違っって抜いてしまうことのないように、コンセントとプラグに標識テープを張り付けてあります。

医療機器安全管理者ともっとクロス

H18年より呼吸療法認定士を取得した看護師、理学療法士の方々と共にRST活動に参加し、人工呼吸器の安全対策や講習会を開催しています。H22年度より呼吸ケアチーム(RCT)とし医師も含め、安全管理はもとより人工呼吸器からの早期離脱を目指した活動を行っています。



【RCT定例会】

現在の医療機器管理室は非常に手狭で機器の管理運営が困難です。只今、新病院の建て替えに向けて進行中です。皆様方の施設を参考にさせていただきながら、より広いスペースと動線を考慮した機器管理室にしたいと考えております。

もっとクロスし情報交換をお願い致します。



臨床工学技術課のメンバー

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



大分赤十字病院 検査部 臨床工学技士 光武 徹
TEL 097-532-6181 E-mail t-mitsutake@oita-rc-hp.jp

当院は、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、二次救急指定病院、臨床研修指定病院で病床数は340床です。2009年に第三期工事が終わり、新生大分赤十字病院となりました。昨年末には病院機能評価Ver.6.0一般を取得し、占有のME室も新設され、最近はうれしいニュースが続いています。当院では現在6名の臨床工学技士が血液浄化とME業務に従事し、医療機器安全の一翼を担っています。



【病院外観】

ウチの一押し！ ～医療機器編～

輸液・シリンジポンプに、「SHOCK WATCH」という衝撃感知センサーを側面に付け、返却時に衝撃の有無を確認しています(センサーは衝撃感知後「赤変」します)。輸液・シリンジポンプを使用しての点滴中に検査や散歩などで患者さん本人が点滴スタンドを押して移動することがよく見られます。そのため不測の転倒事故が起り易く、それに対処するための対策です。(幸いなことに、ポンプが転倒しても患者さんは転倒することはあまりないようです)もし、返却時センサーが「赤変」していたらポンプの電氣的検査から流量精度までの院内規定の点検フルコースを行い異常が無いことを確認しています。



衝撃



医療機器安全管理者ともっとクロス

昨年医療機器安全管理委員会が発足し、職種横断的なメンバーにより今まで問題となっていなかった各病棟管理機器の保守管理の在り方について毎月熱い議論がされています。そのメンバーは、本廣副院長(医療機器安全管理責任者)を委員長として医師、歯科医師、看護師、事務、診療放射線技師、理学療法士、臨床検査技師と幹事の臨床工学技士の多職種で構成されています。これから色々な意見を聞き院内ME機器の更なる安全を目指していきたいと思ひます。

2月5日(土)に「第一回の日赤臨床工学技士会九州・沖縄ブロック研修会」を当院の当番で開催しました。初めての研修会で準備が大変でしたが、他施設の技士とクロスでき有意義な会となりました。今後は、赤十字病院の横のつながりを密に「もっとクロス」して、機器の安全管理を行っていきたく思ひます。



医療機器安全管理者から一言



次は 松山赤十字病院からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



釧路赤十字病院 医療技術部 臨床工学課 尾嶋 博幸

TEL 0154-22-7171 E-mail me-center@kushiro.jrc.or.jp

釧路赤十字病院は、人口およそ20万人の釧路市をはじめとし、北海道東部(釧路、根室管内)の中核病院としての役割を担っています。また道内初の総合周産期母子医療センターの指定も受けております。場所は釧路市の北西部にあり、病棟からの眺望は、背後には国立公園となった釧路湿原、遠くに阿寒連山を望むことができます。眼下には屋内外のスケート場が隣接されている文教地区です。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院手術室における臨床工学技士の業務は、内視鏡手術関連や眼科手術の臨床立ち会い、ME機器管理業務では、手術室にある各種ME機器はもちろん内視鏡器械類の点検管理も行っています。

独自に内視鏡器械類の管理に特化したデータベースの構築、さらに創意工夫・低コストで自作点検治具等を作成し、これらを運用していくことで管理体制の一元化、器械類の精度維持、トラブル防止に努めています。

手術室CEデータベース

Kushiro red cross HP
Clinical Engineer

医療機器安全管理者ともっとクロス

医療安全推進室の看護師長と共に去年7月から毎月1回程度、医療機器が安全・適正に使用されているかチェックリストを用いて、臨床現場で確認を行う病棟ラウンドを実施しています。お互い独自の観点で、使用中の医療機器が間違った使用法や事故に繋がる恐れがあるケースが見受けられた場合には、速やかに助言や改善を部署責任者に依頼し、また安全を考慮した良い点などがあつた場合には、他部署にもフィードバックしています。それらを通して、事故が起きない環境作りを各病棟に統一浸透させています。ラウンド毎に改善ポイントが減っているので、成果も徐々に上がっていると思われま。



医療安全は今後も続いていくテーマだと思います。そんな中他施設の取り組みは大変参考になります。この輪が様々な情報の共有の場となっていくことを期待しています。

医療機器安全管理者から一言

医療安全・知恵の輪！

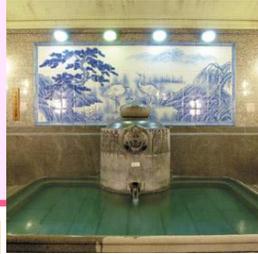
～医療機器安全編～



松山赤十字病院 医療技術部 臨床工学課 白石 裕二

TEL 089-924-1111 E-mail yu-shiraishi@matsuyama.jrc.or.jp

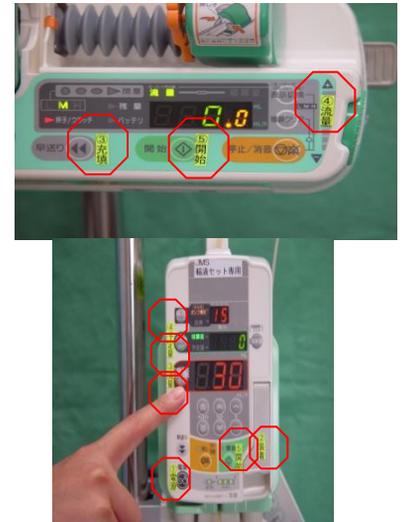
四国、愛媛の松山赤十字病院です。今、年一度放送されている司馬遼太郎原作の「坂の上の雲」で松山をご存知の方も居られるかと思えます。当院から歩いて15分ほどの所には登場人物が通ったであろう道後温泉本館があります。朝の太鼓と同時に湯治客等で賑わっています。当地は、土地柄でのんびりした人が多いのですが、当院の臨床工学技士は、医療の安心安全を提供するため13名が毎日、臨床業務、保守管理業務に飛び廻っています。急がば回れの精神を忘れずに。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院では平成6年から人工呼吸器の中央管理を開始し、また、平成9年から輸液・シリンジポンプを含むME機器のバーコード管理を追加しました。管理直後には輸液・シリンジポンプに対する多くのクレームが発生しましたが、そのほとんどが取り扱いによるものであることが判明しました。同年に看護師さんの提案で誰でも解るように手順番号を添付しました。その後、チェックリストも充実し手順によるトラブルは、ほとんど発生していません。

シリンジ①電源②装着③充填④流量⑤開始 輸液①電源②装着③流量④予定量⑤開始 右の写真のように貼り付けています。(見難くてすいません)



医療機器安全管理者ともっとクロス

平成15年に全国で問題となった人工呼吸器の医療事故対策として事務部の協力によりデバイスのディスプレイ化、同時に平成12年から行っていた機器統一の推進を加速させました。平成18年からは医療安全推進室と共同で、人工呼吸器のラウンドや医療安全研修会を開始しました。更に平成6年から行なっている看護師への人工呼吸器の勉強会・セミナーに加え平成17年からは松山赤十字看護専門学校での講義、看護部の新人看護師研修会や研修医への説明会を行いME教育体制の充実を図っております。また、昨年から開催されている日本赤十字社臨床工学技士会の研修会で、より多くの情報を集める事が出来る様になりました。



【松山赤十字看護専門学校】



【新人看護師研修会】



【医療安全研修会】



次は 大阪赤十字病院からお知恵拝借！！

平成23年4月1日 Vol.21

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



足利赤十字病院 医療技術部
臨床工学技術課 渡邊 史宏

TEL 0284-21-0121 E-mail kikaikanri@ashikagajrc.or.jp

栃木県と聞くと「どこ？」と思う人は多いのではないのでしょうか？
足利市は「小京都」と言われるくらい歴史のある美しい街です。
歴史あり、美味あり、温泉あり、アウトレットあり都心まで1時間と
田舎でありながら利便性の高い土地です。
1度訪れれば、やみつきになること間違いなし！！
お越しの際は是非ご堪能してってください。リピート間違いなし
ですよ。

ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院は7月に新病院開院を迎えます。医療技術部でも様々な新規
業務の立上げを予定しています。従来的人工心肺、呼吸器管理、
透析、心カテ・ペースメーカー、機器管理に加え、手術室業務、
高気圧酸素治療を予定しています。手術室はハイブリッド手術室
を備え、透析、心カテも2倍の規模になります。（人員は少々増
えます・・・）
それに伴いMEセンターも大きく確保されました。（機器がなけれ
ばテニスができません。）
機器管理は病院機能評価Ver6に向け、紙ベースから電子化への取
組みを行っています。

医療機器安全管理者ともっとクロス

コメディカルに向けた定期的な勉強会は、多くの施設で行われています。皆様の施設の勉強会は
どのようなものでしょうか？機器の取扱いに偏っていませんか？当院ではインシデント・アクシ
デントの事例を踏まえ、勉強会の内容を総合的な医療システムとして位置づけようとしています。
各コメディカル部門と協議し、その構築に向けて只今いろいろな部門とクロス中です。

医療機器安全管理は、機器の安全を確保することだけではありません。
臨床工学技士は「チーム医療」の中で点を線で結ぶ役割も担っていると思います。院内のもっとクロス、他施
設ともっとクロスしていきたいと思えます。



7月開院の新病院！！



医療事業部 医療安全課

次は 大田原赤十字病院からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



大阪赤十字病院 臨床工学技術課 佐上 善昭

TEL 06-6774-5111 E-mail sagami@osaka-med.jrc.or.jp

当院は、大阪では焼肉で有名な鶴橋という場所に立地しており、近所には多くの焼肉店が店を構えています。また、当院は歴史的にも古く、一昨年に創立100周年を迎えたところです。平成15年に現在の新本館に建て替わりましたが、それ以前の5階建ての建物は建築様式的にも貴重で、患者様やその家族に愛され続け、現在もその一部が院内各所にステンドグラスとして飾られ息づいています。院内では、その歴史に恥じぬよう13名の臨床工学技士が日々切磋琢磨しています。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院では、医療機器の安全について、医療安全推進室と連携を図りながら行っております。特に力を入れているのが人工呼吸器の安全管理で、病棟で人工呼吸器を使う際は、使用開始時にミニ勉強会を開催し、開始後は臨床工学技士が毎日ラウンドするようにしています。また、異常を早期発見できるように、病棟で人工呼吸器（NPPVも含む）を使用する際は、必ずナースコールとアラームを連動するようにしています。機種選定の際もナースコールと連動できる機種のみ採用するようにしています。



【ナースコールとの連動】



【ラウンド中】



【人工呼吸器開始時ミニ勉強会】



【病棟・外来単位の輸液ポンプ勉強会】



医療機器安全管理者ともっとクロス

当院の輸液ポンプは滴数制御型と流量制御型が混在していましたが、安全性の面から今月より流量制御型で統一する方針となりました。それに伴い新機種の輸液ポンプが採用されることになり、看護師への勉強会の開催方法を見直しました。従来は1か所に集めての開催でしたが、輸液ポンプは看護師が操作する機会が最も多い機器であるため、より多くの看護師に参加してもらう必要があると考え、病棟単位の勉強会としました。しかも看護師は勤務の都合上、1回の開催では全員が参加できないため、原則1病棟2回の開催としました。臨床工学技士2人で1チームとし、6チームの勉強会チームを編成して、新機種導入前の1ヶ月間で延べ45回の勉強会の開催にチャレンジしました。



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



大田原赤十字病院 臨床工学技術課 室井 純一

Tel 0287-23-1122 E-mail e.medical@ohtawara-jrc.com

あいさつ … 当院は昭和24年7月に開設され、現在556床、救命救急センター、地域医療支援病院、の認定も受けておりへき地診療を行っている他、平成21年にはドクターカーを導入し、栃木県北部の地域中核病院としての役割を担っています。このたび新築移転計画が進められ、平成24年7月にオープン予定となっています。



【平成24年7月に完成する新病院！】

ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院の機器管理体制として、「まだまだ機器統一がなされていない！」「中央管理をする人員、場所の不足」等から、現在は病棟管理（個別管理）体制を取っております。病棟管理の良いところとして、「使い慣れた機器を使用できる！」「自分達のものだと大切にしてくれる！」「使いたい時に直ぐ使える！」などといった利点があります。そこで我々CEの関わりは、病棟へ出張し保守点検を行い、機器によりメンテナンス室に運び点検を行います。勉強会は全体又は病棟別にも定期的に開催しています。

医療機器安全管理者ともっとクロス

平成20年5月に医療機器安全管理者を筆頭に、医療安全全国共同行動に登録し「医療機器の安全な操作と管理」を行動目標に掲げ、医師、認定看護師、看護師、臨床工学技士、薬剤師をメンバーとし、人工呼吸器、輸液ポンプ・シリンジポンプのプロジェクトチームを立ち上げました。人工呼吸器安全管理チームは、マニュアルを含めた物品の見直し、各職種から看護師を対象とした勉強会を開催し現在ではRSTチームへと移行しました。輸液・シリンジポンプチームも同様に、簡易チェックシートの作成、点滴ポール、輸液セットなどの物品の見直しを行い現在に至ります。

日々進歩する医療の中で、医療機器も多種、多様化し今後の医療の質と安全を高めるためにも機器管理はますます重要となってくると思います。これかも多職種で協力し合い患者さんにより良い医療を提供できるようがんばりましょう！

医療機器安全管理者から一言

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



京都第一赤十字病院 救急部 医療技術課 宮下 誠
TEL 075-561-1121 E-mail makoto-miyashita@kyoto1-jrc.org

いにしへの都、京都。

言わずと知れた名所が数多くあり、京都市の南東に位置する京都第一赤十字病院は南に紅葉で有名な「東福寺」、北には「三十三間堂」、「清水寺」があります。

2年後には新棟が完成予定であり、我々臨床工学技士も伝統を継承しながら新たなことにチャレンジしたいと思います。



【現在の京都第一赤十字病院】

ウチの一押し！ ～医療機器編～

医療機器管理ソフトとしてOpen Library MEを使用しています。全ての医療機器をバーコード管理とし、貸出・返却・終業点検の記録、利用状況の把握をしています。また、点検や修理内容などのデータを蓄積することで分析を行い、故障やインシデントの多い機種を特定し、新規購入時の選定に役立てています。



【完成予定図】



筆者

心外Dr

医師・看護師を交えた人工心肺ハンズオンセミナー

医療機器安全管理者ともっとクロス

医療安全推進室、救急部、クリティカルケアナーズリーダー会と協力して同一機種のAED機能付除細動器を各病棟に配備いたしました。マニュアルで除細動するときも「パドル」は使用せず、「使い捨てパッド」を常時使用出来る状態にしています。夜間など急変時対応には看護師によるAED操作、医師の波形診断があるときはDCとしています。どちらにしてもその時の状態に合わせた速やかな除細動を目標にしています。また、院内のBLS講習も一貫した教育が出来る事もメリットだと思われます。



封を開けて貼るだけで完了。モニターとしても使えます。

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



福島赤十字病院 臨床工学技術課 橋本 健一

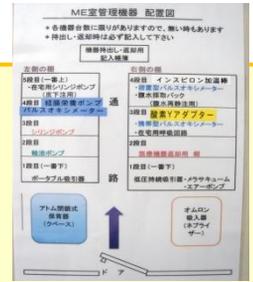
Tel 024-534-6101 E-mail me@fukushima-med-jrc.jp

当院は福島県の北部に位置する福島市のほぼ中心地にあり、病院のすぐ近くには花見山や福島競馬場(中央競馬)といった観光スポットがあります。また、広大な面積を持つ県内(本州第2位)には、会津城飯盛山白虎隊記念館や猪苗代・野口英世記念館、磐梯山といった観光名所があります。磐梯山には【日本赤十字社・平時災害救護の地記念碑】があり我々に関係のある観光地となっています。東北に来た際には、是非足を運んでみて下さい。



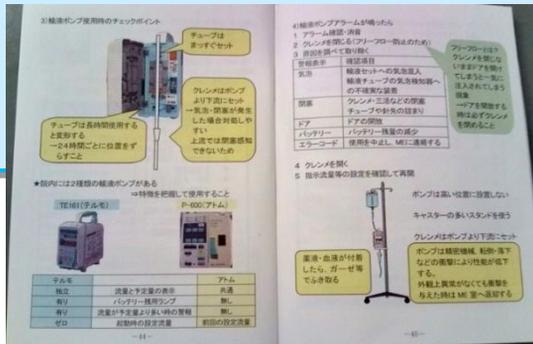
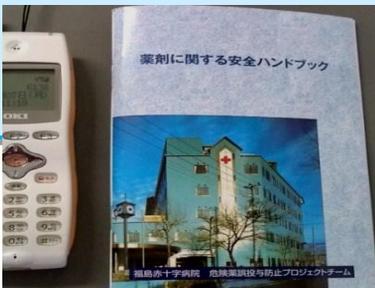
ウチの一押し！ ～医療機器編～

- ・当院では医療機器中央管理室の入口に【機器保管場所図】を貼り、持ち出し者がわかりやすいようにしています。
- ・輸液ポンプ機種統一化を進めてますが、現在2機種使用しています。古い機種は数は少ないですが、流量と予定量の表示部が共通になっており設定ミス防止の注意喚起シールをはっています。また、貸し出す時、古い機種は流量最小単位設定にしています。
- ・点検済みシールは、他の施設と同様に貼っています。【当院は、3色のビニールテープ(安く済みます)を貼り一目で点検月がわかる様にしています】



医療機器安全管理者ともっとクロス

2年前に医療安全全国共同行動に参加し【危険薬の誤投与防止】についての安全ハンドブック(手のひらサイズ)を作成し、輸液・シリンジポンプの使用法・アラーム対処方法を載せ医療従事者全員に配布しました。当院はまだ電子カルテになっておらず、イントラネットによる周知はできませんが、この様なハンドブックや定期的な研修会、病棟に出向いての研修会をポンプ・呼吸器・除細器・モニター等について行っています。



【研修会の様子】

医療安全・知恵の輪！



～医療機器安全編～

松江赤十字病院 医療技術部
臨床工学課 原 敏郎

Tel 0852-24-2111 E-mail me-center@matsue.jrc.or.jp

松江市は、東に中海、西に宍道湖、北に日本海を望む「水の都」です。市内には、「松江城」を中心として、古代から近世までの多くの史跡が残る城下町です。当院は現在、平成24年度の完全開業を目指して工事が進んでおり、昨年の高層棟完成に伴いMEセンターが新設されました。現在、臨床工学技士6名、技術員1名で臨床業務及び機器の保守管理を行っています。



【松江城】



【平成22年に完成した高層棟】



【宍道湖に沈む夕日】



【平成24年完成予定の新病院】

ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院では、平成17年より輸液ポンプ(流量制御タイプ)及びシリンジポンプの機種統一を実施しています。これにより輸液セット及びシリンジの種類も削減され、操作ミス等の発生を減らすことが出来ました。また、MEセンターで輸液ポンプ165台、シリンジポンプ70台を一括管理し、各病棟の協力も得て機器の使い回しを削減し、いつも整備された状態での運用ができる体制にしています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

新入職看護師を対象に、ME機器(特に輸液ポンプ・シリンジポンプ)や医療用ガスポンベの取扱いについて、看護部と連携をとりながら研修会を行っています。また一般病棟で使用する人工呼吸器の機種も統一して行くよう進めており、人工呼吸器の取扱いや使用中のケアについて集中ケア認定看護師と協力し、定期的に勉強会を開催して機器の安全活動に努めています。



近年は、認知症の患者さんも多く、病棟で離床センサーを使用することが多くなりました。病棟からの購入希望も多く、自作可能な機器もあるのでMEセンターでパーツを購入し作製しました。ケースの穴開け等加工に少し手間がかかりますが、費用は購入の10分の1以下でした。



【MEセンターで作成した離床センサー】

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～

仙台赤十字病院 臨床工学技術課 三好 誠吾

TEL 022-243-1111 E-mail s-miyoshi@sendai.jrc.or.jp



宮城県観光PR
キャラクター「むすび丸」



仙台は「杜の都」と呼ばれ、市内にはけやき並木が並んでいます。

仙台赤十字病院は、市内南西部の丘陵に位置します。臨床工学技士は9名で透析部門とME機器管理部門に分かれて業務を行っています。先頃、3月11日に東日本大震災が発生いたしました。当院は幸い患者さんや職員に怪我はなく、新旧館の接続部と水道管とガス管が損傷した程度で済みました。震災時は当院と他施設の透析患者さんに3クール透析を実施しました。ME機器管理部門は、NICUの医療ガスや電気設備の万が一の事態に備え発電機の立ち上げやポンペの準備などを行いました。ME機器の被害は棚から落下した程度の軽いものでした。石巻地区を含む三陸沿岸部は津波により甚大な被害を受けられました。謹んで被災された皆様方にお見舞い申し上げます。



ウチのゼロ押し！ ～医療機器編～

以前日常点検が終了した医療機器は、何も表示をしていませんでした。そのため、使用可なのか不可なのか分かりづらいという意見が聞かれました。そこで、最近日常点検が終了した機器などに「使用可」などのコメントをマスキングテーププリンター（キングジム製「こはる」）を用いて貼り付けるようにしました。こはるはポケットに入れて手軽に持ち運びが行なえ、日常点検が終了した際にその場で印刷して貼ることができます。またマスキングテープなので、いつでも簡単に剥がせます。（「ポストイットにコメントを書いて貼ればいいのか」と言われてしまうとそれまでです。いち押しではなくゼロ押しにさせていただきました。）



医療機器安全管理者ともっとクロス

ME機器管理部門と医療安全推進室との取り組みとしてこれまでに

- ①新採用者へ医療機器の取扱い説明の実施
- ②医療機器の機種統一
- ③輸液シリンジポンプの使用 midpoint 検チェックリスト作成

などを行いました。しかし現在までの活動を振り返って見ますと多職種を巻き込んだ医療安全活動があまり行なわれておりませんでした。今後チャンスを見つけて医療安全活動をより向上させたいと考えます。

当院では第5次医療法改正で掲げられている医療機器の安全確保のための体制は必ずしも機能しているとは言えない状況です。私は医療機器安全管理者に任命されてからまだ3ヶ月しかたない未熟者ですが、患者さんとスタッフへの医療安全を確実なものにしていくためにも、日本赤十字社 臨床工学技士会の技士の皆様とぜひともクロスさせていただき、少しでも医療機器安全管理者としての役目を果たしていきたいと思っております。



医療機器安全管理者から一言

次は 古河赤十字病院からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～

高知赤十字病院 臨床工学技術課 西村 布紀子

TEL 088-822-1201 E-mail rinsyo-kougaku@krchp.jp



昨年、龍馬ブームに沸いた高知県です。気候の暖かい土地ですが、今年はずすがに寒く、山間部では積雪で高速が通行止めになりました。
当院臨床工学技術課は6名の臨床工学技士で構成されています。透析・ME・人工心肺・カテ・ペースメーカー等の業務に従事しています。
臨床工学技術課設立2年目の今年、業務の充実・拡大を目指しがんばりたいと思います。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

とりたてて、特別な事はしていないのですが…
呼吸器・ベッドサイドコンソール・人工心肺等、
他と区別しなければならないコンセントには、
注意喚起をうながすためラベルを付けています。
当院の設備は、すべてのコンセントが停電対応ではないので、これら機器の電源は必ず自家発電コンセント(赤色)に差す様指導しています。
立ち上がりまでの30秒は、バッテリーにがんばってもらいます。



医療機器安全管理者ともっとクロス

当院では院長認定制度課題別研修(災害救護・院内感染防止・医療安全対策・医療品質)を実施しています。
医療安全対策コースで年2回(人工呼吸器について・輸液、シリンジポンプについて)の講習を受け持っています。
しかし今年で3年目、ネタもつききて今年はどうしようか今から頭を悩ませています。

医療機器管理・書類の作成・管理…そういった物の難しさをただいま痛感しています。院内の医療機器が安全で安心して使用できる様、日々邁進していきたいと思ひます。

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



古河赤十字病院 臨床工学技術課 田島 義雄

TEL 0280-23-7111 E-mail info@koga.jrc.or.jp

当院は、茨城県の最西端部に位置しており栃木県、埼玉県、群馬県に隣接する特殊な地域にあるため、他県からの患者様の来院も多く見られます。古河市名物、鮎の甘露煮、和菓子の白玉は遠路はるばる買い求めに来る人達も...

2010年5月よりオール電化の新病院に移転し近隣施設からの見学者も多くあります。我々スタッフも一丸となり病院を盛り上げている真只中です。

現在、臨床工学技士は5名在職しており、血液浄化業務、医療機器安全管理業務などを主に手狭ではありますが充実した内容をこなしております。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院は、新病院移転時に透析センターも旧病院での27床から31床へ、2011年3月には31床から35床へ増床し最大39床までの増床が可能となり、多忙な毎日の業務をこなしております。数年前からは、臨床工学技士の早出制度を導入し、透析業務開始前の透析液、透析機器の始業点検を充実させ、安全な業務実施が出来るよう務めております。

医療機器安全管理では、輸液ポンプ、呼吸器、除細動器、AED、透析監視装置等、年間計画を元に各医療機器の責任者を決め受け持ち機器に対する責任感を高め、きめ細かい院内点検を目指し一人一人頑張っております。

医療機器安全管理者ともっとクロス

当院での医療機器安全管理者と言えば我々臨床工学技士です。医療機器安全管理で非常に難しく感じていることがあります。それは、一番使用頻度が高いと考えられる看護師に、医療機器の安全への意識を持ち、理解してもらうということです。勉強会等を開催しても、病棟勤務の看護師の多くは勤務上出席が困難なことが多く、大多数の看護師に受講してもらえないという現状です。なんとか病院全体の看護師に出席してもらえないかと開催日時等含め思案しています。

これから、我々医療機器安全管理者として、各部署からのご意見も頂きながら病院全体で安全管理について意識を持ち理解出来るように試行錯誤して取り組んで行きます。



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～

高松赤十字病院 医療機器管理課 松本 浩伸

TEL 087-831-7101 E-mail jasect@kagawa-rinkou.com



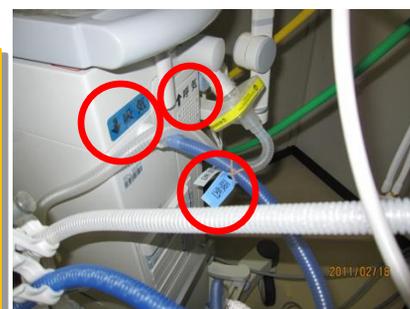
ここ数年、“讃岐(さぬき)うどん”で一躍有名になった香川県。香川県は四国の北東、瀬戸内海に面しており、全国で最も面積の狭い都道府県です。当院はその香川県の高松市に所在しています。創立104年になり、病床数は589床で、急性期の地域における中核病院として位置づけられています。

現在、臨床工学技士は10名が医療機器管理課に所属しており、日常・緊急業務に日々対応し、がんばっています！！



ウチの2押し！ ～医療機器編～

当院は人工呼吸器の中央管理をしており、日常点検、呼吸回路交換等を臨床工学技士が行っています。臨床工学技士、また看護師も含め、回路破損等のトラブル時での回路交換の際に人工呼吸器の吸気と呼気の接続間違いを防止する目的で本体に吸気、呼気のシールを貼付して視認性を良くし、呼吸回路に吸気側に吸気と記したタグを取り付け、呼気側には呼気と記したタグを取り付けています。更に吸気側（シール、タグ、回路）は青で、呼気側は白に統一を検討中です。



手術室では医療機器の高度化に伴い、臨床工学技士の必要性が高まり、一昨年より、臨床工学技士が常駐するようになりました。医療機器の管理・点検、トラブル対応以外に修理等でのメーカーとの交渉及び定期的に勉強会を開催することで事故防止に努めています。また各機器に管理番号を付けて機器台帳を作成し、修理履歴等の管理を行っています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

医療安全の活動の一環として、病棟における使用中点検と現状を把握する目的で、月2回の臨床工学技士と看護部の医療安全管理者と一緒に取り組む輸液ポンプの病棟ラウンド、週1回の医師・看護師・臨床工学技士・理学療法士で構成された呼吸ケアチームによる病棟ラウンドを行い、ラウンドの結果報告を病棟にフィードバックしています。またRSTの一員として勉強会の企画・開催を行っています。

当院では心臓血管外科で手術を受けられた患者様の集まり・高松赤十字ハートクラブという患者会を年1回開催しています。臨床工学技士も毎年、医療機器展示コーナーを設け、医療用具の展示や説明を行っており、毎回、好評を得ています。



輸液ポンプ・ラウンド



呼吸ケア・ラウンド



ハートクラブ

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



伊達赤十字病院 臨床工学技術課 山本 英希
TEL 0142-23-2211 E-mail Jrc.date@ninus.ocn.jp

伊達市は、人口おおよそ3万7千人程の町で、温暖な気候から北の湘南、または武士の町とも呼ばれており、藍の生産地としても知られています。また刀匠や刀剣研磨師が住み、日本伝統の技を守り受け継いでいます。2000年春には有珠山噴火、2008年には近隣洞爺湖町での洞爺湖サミット(主要国首脳会議)が開催され、その際皆様には大変お世話になりました。伊達赤十字病院の臨床工学技士は5名で、業務内容は人工透析・その他血液浄化・心臓カテーテル・ペースメーカー・高気圧酸素・肝焼灼RFA・医療機器保守点検など曜日によりますが大変忙しい時間帯もあります。



【伊達赤十字病院人工透析センター】

ウチの一押し！ ～医療機器編～

現在、当院では独自に管理ソフトを作成し、医療機器の管理を行っています。各講習ライセンス取得後、平成4年より人工呼吸器のOH及びキャリブレーションを始め、徐々にシリンジポンプ、輸液ポンプ、低圧持続吸引器等の中央管理を始めました。中央管理では部品交換などのメンテナンスに力を入れ、点検修理・工賃コストの低減及びトラブル発生時に正確な判断が出来るように日々業務に従事しています。また中央管理ではなくても院内で使用されている多くの医療機器の修理・更新に携り、メーカーとの窓口となっています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

当院では、医療安全全国共同行動に積極的に参加しています。医療安全推進室との定期会議による情報の共有、新卒看護師を対象とした医療機器の講習会、また各病棟からの依頼による出張講義も行っています。どうしても敬遠されがちな医療機器ですが、恐怖心を少しでも軽減し、正しく安全に使用してもらうために、日々少ない人数で頑張っています。



当院では薬剤を使用する際に医療安全の一環として「5つのRight」を実践しています。今後は他の医療従事者に、より安全に医療機器を使用してもらうために医療機器を操作する際の「指先確認」を徹底していきます。

Right Drug (正しい薬剤)
Right Dose (正しい量)
Right Route (正しい方法)
Right Time (正しい時間)
Right Patient (正しい患者)

医療機器安全管理者から一言

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



庄原赤十字病院 臨床工学技術課 三上 嘉浩

TEL 0824-72-3111

あいさつ ■■■庄原市は広島県の北東部に位置し、人口は40,660人ながら総面積は広島県の14%を占めています。平成の大合併で西日本一の面積となり、東は岡山県、北は島根県・鳥取県に接する中国地方のほぼ中央にある市です。庄原赤十字病院は病床数310床、職員数は398名で広大な庄原市内で唯一の総合病院として地域の急性期医療を担っています。

春の桜、夏山の登山、秋の紅葉と四季折々に彩りを変える豊かな自然に恵まれ、国営備北丘陵公園での野外コンサートやオートキャンプ、鮎釣りやゴルフ、スキーにクロスカントリーと一年中楽しめます。一昔前は「ヒバゴン」で有名になった地域と言え…です。



【平成25年に完成する新病院！】

あいさつは、中本事務部長にお手伝い頂きました

ウチの一押し！ ～医療機器編～

①中央管理と機種や消耗品の統一（標準化）。

②交換時期や稼働状況が一目で分かります。



臨床工学技士5名で奮闘中

超アナログです



いつも、笑顔と満タン充電で準備しています！

医療機器安全管理者ともっとクロス

新人デス…？

コミュニケーションの場

みんな熱心です

毎日2回合同で情報交換です



①毎日のラウンド点検

②スタッフ講習会

③透析室ミーティング

近年、専門的な知識と経験が必要な業務と機器が増えてきました。今後は、各機器の専任制も視野に入れて技術の向上を目指す必要があるのかもしれませんが…。



医療機器安全管理者から一言

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



八戸赤十字病院 臨床工学技術課 岩織 貴幸

TEL 0178-27-3111 E-mail 780co001@hachinohe.jrc.or.jp

八戸市は、太平洋に臨む青森県南部地方の中心都市であり、伝統芸能である八戸三社大祭、えんぶり、騎馬打毬は国の重要無形民俗文化財に指定されています。

B級ご当地グルメで知られるせんべい汁は、約200年前から食べ継がれてきた郷土料理で、食べられるお店は八戸市内を中心に170軒以上あるそうです。

※せんべい汁研究所調べ

B-1グランプリ発祥の地でもある八戸市にお越しの際は、是非ご賞味下さい。

ウチの一押し！ ～医療機器編

MEセンターでは、医療機器の中央管理を行い機器の効率的な運用に努めており、点検や修理の依頼もMEセンターで受けるなど窓口の一本化を図っています。

医療機器の窓口となると、老朽化した機器や使用しない機器の保管依頼も多くなります。以前は雑然としていたMEセンターも仕分け(処分)を積極的に行い、現在は「すっきり！」としています。

スペースの確保や作業環境の整備のためには、5S活動は欠かせないと実感しています。

【せんべい汁】



【MEセンター】

医療機器安全管理者ともっとクロス



現在、医療安全推進室と連携し「輸液ポンプ・シリンジポンプの院内認定制度」を計画中です。

ポンプに関する知識・技術を向上し、安全にポンプを使用できるようにすることが目標です。使用方法に関する研修会の開催など、認定制度を盛り上げていきたいと思えます。

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



沖縄赤十字病院 臨床工学技士 友寄 隆仁
Tel 098-853-3134 E-mail red-cross-me@okinawa-rch.jp



当院は去年の7月に新病院へ新築移転し「ゆいクロス」として発進して早1年弱が経過し、業務的にも徐々に落ち着いてきました。引越し後の新沖縄赤十字病院は、那覇市中心部の与儀に位置し、隣には中央保健所・県立看護大学、目の前には市民会館・県立図書館・与儀公園があります。当院では医療機器保守管理・血液浄化治療・人工呼吸器療法・心臓カテーテル治療・ペースメーカー業務にMEが参入し、医学と工学の両面から安全な医療に貢献できるよう日々取り組んでいます。



【去年7月開院した新病院！】



ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院でも人工呼吸器のMEセンター中央管理を行っています。その中で、患者使用後の回路や種々の接続備品などの洗浄・消毒時に回路部品の紛失・破損・他の滅菌物への混入などのトラブルが多かったため、新病院移転を機にMEセンター内に回路洗浄消毒機器（パストール洗浄機）、ヘパフィルター内蔵の乾燥機を整備し、正確な定数管理と洗浄・消毒の実施を開始しました。回路の洗浄消毒を含む人工呼吸器保守管理の一連の業務に携わる職種をMEのみとし、業務の簡素化を行いました。（スムーズな業務が可能となり効率化できました）



【パストール洗浄機】



【ヘパフィルター内蔵乾燥機】



医療機器安全管理者ともっとクロス

当院の臨床工学技士（ME）も、他の赤十字病院の臨床工学技士と同様に、ようやくその所属が事務部施設課から医療技術部 臨床工学課となりつつあります。その中でMRM委員の一員として積極的にMRM・リスクマネージャー合同会議に出席し、医療機器の安全使用に関する助言や情報提供を行い、他部署と協力・連携してインシデントの防止に取り組んでいます。また、新人看護師を中心に、定期的に医療機器の研修会を開催し、より安全な医療が提供できるよう周知活動を行っています。



看護師対象の研修会 講義編



臨床工学技士

研修 実践編

医療機器安全管理担当者から一言

新病院ではMEセンターが、3階フロアに設置され、両隣はICUと血液浄化センター、目の前には血管アンギオ室と手術室があり、緊急性の高い治療にもより迅速な対応が可能となりました。これからもこのすばらしい環境を活かして業務に励んでいきたいと思えます。

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



水戸赤十字病院 臨床工学技術課 小杉 大輝

Tel: 029-221-5177 E-mail: me-mito@mitojrc.or.jp

水戸と聞いて思い浮かぶのは“納豆”や“黄門さま”、“偕楽園”ではないのでしょうか？

3月11日に発生した「東日本大震災」では、水戸市も震度6弱の地震に遭い、市内の多くの箇所が被害を受けました。偕楽園では崖崩れにより観梅も中止となってしまいました。幸いにも当院の透析の機能は無事だったため、地震直後には県内だけではなく福島県からも多くの透析患者を受け入れ、慌しい日々が続きました。今もなお、強い余震が続いていますが、スタッフ一同地震にも負けず日々頑張っています。

ウチの一押し！ ～医療機器編～

地震によって輸液ポンプ、シリンジポンプが落下してしまい、多くの台数のポンプに対して流量精度などの点検を行わなくてはならない状態になりました。

そこで、このようなことが起こらないように、ポンプを保管してある棚には自転車の荷台で使うゴム紐を巻き、ポンプの下には滑り止めを敷いて落下を防ぐようにしました。また、病棟での保管中、使用中の落下や衝撃については、外観確認や「SHOCK WATCH」を用いて確認し、異常な状態のまま貸し出すことを防いでいます。



医療機器安全管理者ともっとクロス

医療機器を安全かつ適切に使用するため、病棟やメーカーなどと協力しながら勉強会を開催しています。今年も、テレメータとAEDの管理を開始する予定のため、このような勉強会の開催も多くなるのではないかと考えています。また、この勉強会を通じて、医療機器についてはもちろんですが、“MEさん”というものをもっと知っていただけるといいなあ...と思っています。



最後になりましたが、先の震災におきまして皆様には、ご心配とたくさんのご支援を頂きましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。

絶対に起こるといことは分かっていますが、心のどこかでは油断があったのだと痛感しました。

がんばっぺ！日本！！

医療機器安全管理者から一言

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



益田赤十字病院 臨床工学技術課

TEL 0856-22-1480 E-mail iryoukikanri@masudajrc.or.jp

益田赤十字病院は、島根県の西部に位置する病床数327床で、14の診療科がある中核病院です。臨床工学技術課は、現在平均年齢29.6歳、人員6名で構成されています。業務内容は血液浄化、心臓カテーテル、ペースメーカー、呼吸器、内視鏡、手術室、機器管理、救急搬送です。日替ローテーション、ミーティングを取り入れ一致団結し、業務に取り組んでいます。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

臨床工学技術課では、各業務を日替わりローテーションで行い、課員全員が同じレベルで業務を遂行出来る様に日々訓練し、多岐に亘る業務の為、カンファレンス等で情報を統一化しています。また、各部門におけるスペシャリストを目指し積極的に認定士の取得を目指しています。機器管理においては、医療機器の情報(購入年月日・配置先・トラブル履歴・次回点検日等)のデータベースを作成し、点検時期を正確に把握出来る様にしています。臨床においては、救急外来・院内におけるC P A発生時には少しでも力になれる様に積極的に協力しています。また、救急搬送にも同乗することで機械トラブル・呼吸器トラブル等を無くし、スムーズな他院への搬送を行っています。

医療機器安全管理者ともっとクロス

当院では毎年、新人看護師対象に輸液ポンプ・シリンジポンプの勉強会を開催しています。また各部署ごとで人工呼吸器の勉強会や、その部署に関連した医療機器の勉強会も開催しています。人工呼吸器・血液浄化・心臓カテーテル・内視鏡・ペースメーカーに関しては臨床工学技士も積極的に治療方針を提案し、医師・看護師・コメディカルと連携を取り合っています。また、当院だけでなく市内にある病院とも連携を取り、医師の方々の懇話会に参加し臨床工学技士も症例を報告しています。

当院でも地方病院の抱える医師・看護師不足という問題に日々悩まされています。臨床工学技士としてその不足分を少しでも補えるよう努力しております。他院でも同じような問題を抱え、何か工夫されている事があればアドバイスいただければ幸いです。



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



山梨赤十字病院 臨床工学技術課 伊東 勉

Tel. 0555-72-2222 E-mail tousekika@yamanashi-med.jrc.or.jp

あいさつ ...

こんにちは山梨赤十字病院です。当院は富士山の麓、富士河口湖町に位置し、休日ともなれば観光客で賑わっております。そんな観光客に人気があるのがほうとうだけではなく『吉田うどん』です(右写真)。うちの技士達も週2回は食べています。近くにお越しの際には是非ご賞味下さい。

地元で人気の吉田うどん！

ウチの一押し！ ～医療機器編～

人工呼吸器の回路の統一化を始めました。

今までは、呼吸器の機種ごとに回路が違い、回路交換時の準備間違いや、在庫の管理等に問題が生じることがありましたが、このことにより、準備間違いが無くなり、より安全に業務を行うことが可能になりました。また、全て同じ回路のため、発注や在庫の管理もしやすくなりました。

今後の課題は、医療機器の安全、感染対策として、呼吸器のフィルターのディスポーサブル化及びMDIの導入を目指しています。これも、回路の統一に伴い全て同じフィルターを使用できるという利点があります。

医療機器安全管理者ともっとクロス

医薬品医療機器情報配信サービス (PMDA) の活用

当院では医薬品医療機器情報配信サービス(PMDAメディナビ)を活用し、重要な安全情報を直ちに入手し各部署に配布しております。それにより情報の伝達がスムーズに行われ、院内の重篤な事故の予防に役立っています。



当院ではまだ医療機器の集中管理、及びデータベース化が進んでおりません。今年度はパソコン・タブレットにてバーコード管理を進め、各病棟と密接な関係を築き安全管理を行っていきたくとME一同努力していきます。



医療機器安全管理者から一言





医療安全・知恵の輪！ ～医療機器安全編～



徳島赤十字病院 臨床工学技術課 宮本 将人

TEL 0885-32-2555 E-mail smile-op@tokushima-med.jrc.or.jp

徳島県は四国の東部に位置し、周りを海と山で囲まれています。鳴門の渦潮にもまれ身の引き締まった鳴門鯛やワカメ、スダチ、鳴門金時、徳島ラーメンなど名物も多くあります。

あと、徳島と言えば何と言っても「阿波踊り」！！
(ちなみに「阿波尾鶏」って言う鶏肉もあるんでよ)
お盆時期に県内一帯で行われ、特に徳島市内の阿波踊りは毎年全国各地から多くの人出でにぎわいます。
徳島赤十字病院も「日赤連」という名前の連で毎年参加しています。もちろん今年も参加予定ですので、お盆の時期には是非徳島へお立ち寄りください。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

機器管理に専用管理ソフト「CEIA」を導入し、輸液・シリンジポンプを中心にMEセンターにて中央管理を行っています。また、病院所有のモバイルICU(ドクターズカー)車載の機器も点検しています。

院内にある全ての医療機器で不具合等が見つかった場合、まず臨床工学技士が初期点検を行うようにしています。これを我々は「MEホットコール」と呼んでいます。不具合等の中には機器の故障ではなく操作ミス等のヒューマンエラーが多くあり、メーカーによる修理・点検を避けることによってコストの削減に努めています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

輸液・シリンジポンプについて、定期的に医師・看護師向けに勉強会・操作研修会を行っています。また新人向け、勤務10年以上のベテラン向けの研修があり、「わかりやすかった」「新たな発見があった」と好評を頂いております。



医療機器安全管理者から一言

医療安全推進室に兼務となり、毎週行われる医療安全会議において院内のインシデント事例の分析・各部署へのラウンドを行っています。医療機器における事例には臨床工学技士が対策を考え、会議で決定し実行しています。永遠のテーマであるヒューマンエラーをなくすために工学技士が一丸となって走り続けます。



機器点検は私たちにおまかせあれ！

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



津久井赤十字病院 医療技術部 医療技術課 秋山寛子

TEL 042-784-1101 E-mail rinsho@tsukui-jrc.tsukui.kanagawa.jp

津久井ってどこにあるの？とよく聞かれます。
当院は神奈川県にあります。とは言っても横浜のような華やかな場所ではなく、山と湖が見渡せるとても長閑な環境です。
臨床工学技士3名で透析業務・医療機器管理業務を行っています。

ウチの一押し！ ～医療機器編～

医療機器に関する事故は思わぬところで発生したりします。
当院では、人工呼吸器の加温加湿器を自動給水に切り替える際『夜勤だと暗くて点滴と間違えるかも』との声を受け、自動給水用の蒸留水を他の点滴と間違わないように札を付けて使用しています。
また酸素使用時に接続の緩みがあったり、人工呼吸器使用中に抜けかけた事例があったため、酸素配管の上に確認事項を貼付しています。
こんなこと有り得ないと思うようなことが起こる事があるので、できるだけ未然に防げたらと思っています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

毎年、看護部・安全推進室と協力し、新規採用者・中途採用者向けに人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプの説明会を行っています。必要に応じて全看護師対象とする場合は、各病棟へ出向き、勤務時間内に数回ずつ行っています。

また安全推進室のメンバーにもなっているので、月1回ラウンドを行い、モニタのアラーム設定・酸素の接続・コンセントの接続・人工呼吸器やポンプの使用チェック等の確認も行っています。



日々、多種多様な医療機器が導入され使用する側の進歩も求められます。

医療機器をより安全に使用するために、医療事故防止対策委員会や安全推進室をとおし、多職種で協力し合っていこうと思います。

他施設の皆様からお知恵をお借りすることがあると思います。これからも宜しくお願いします。

医療機器安全管理者から一言

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



福岡赤十字病院 臨床工学課 井上 征洋

TEL 092-521-1211 E-mail frcce.yuki@fukuoka-medjrc.or.jp

あいさつ …

福岡市は人口140万人を抱える都市で、“住みやすい街”として知られ、新鮮な食材、自然豊かな緑に囲まれ、都会と自然がうまく調和しています。英国情報誌MONOCLE(2008年)の「世界で最も暮らしやすい都市」では上位25位に福岡市はランクインされています。当院は、昭和22年12月に日本赤十字社福岡県支部福岡診療所として開設、昭和27年に福岡赤十字病院と改称され、以来60年余に亘り地域の中核病院として地域医療・救急医療に貢献してきました。現在、平成25年4月のグランドオープンに向け、着々と工事が進んでいます。また、臨床工学技士も8名から今年度より12名と増員され新病院に向けて技士一同、より一層業務に取り組んでいきます。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

【平成25年4月に完成する新病院！】

当院では、平成20年から中央管理を開始し、整備された機器をいつでも使用できるようにしています。管理機器も年々増加し、現在では人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ・経腸栄養ポンプ・フットポンプ・エアーマット・低圧持続吸引器の7機器・16機種・400台を中央管理しています。

輸液ポンプ・シリンジポンプに、衝撃感知センサー「SHOCK WATCH」を使用し、センサーが反応していれば、点検を行います。ほとんどの場合、異常はないのですが、時々外観に異常が無いのに機器内部の破損があったりと、非常に有効だと思えます。

医療機器安全管理者ともっとクロス

病棟からの依頼に対して、勉強会や機器の説明会などを行っています。ME機器の取扱いマニュアルを作成、ファイリングし、各病棟に配布。また、イントラネットを利用し、マニュアルや医療安全情報機関の最新情報を閲覧できるようにしています。MEだよりを定期的に発行しており、医療機器の安全に関する情報や臨床工学技士の業務の紹介などを行っています。月1回看護師と連携会議や病棟ラウンドを行っています。また、各委員会に積極的に参加し、院内での医療機器の適正使用や安全管理に努めています。



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



芳賀赤十字病院 臨床工学技術課 小宅 政恵
TEL 0285-82-2195 E-mail hdc.oyk@haga.jrc.or.jp

東日本大震災に被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

当院の所在地真岡市は、栃木県南東部に位置し、イチゴ生産量が日本一、休日・祝日にはSLが走る街です。近隣には陶芸の里益子、モータースポーツの聖地ツインリンクもてぎなどがあり、自然と文化と科学が融合した環境は、住み良い町ランキング全国3位の評価を得ています。病床数は365床で地域の中核病院として位置づけられており、5名の臨床工学技士は血液浄化、医療機器管理、心カテ、ペースメーカーなどの業務を通して院内のみならず地域医療にも貢献しています。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

非常用電源は停電が発生した場合、生命維持管理装置に安定した電気を供給するために設置されていますが、一般電源より電流制限器の許容量が少なく、停電時に様々な機器を制限なく接続すると過電流が流れて回路が遮断され、非常用電源から電気が供給されなくなってしまう危険性があります。

当院では、2007年に施設係と協力し、停電時非常用電源使用マニュアルとして、使用する医療機器の優先順位を策定しスタッフに周知しました。今回、大地震による長時間停電を経験したことや今後の計画停電を見据え、スタッフ全員に再度認識していただくために、各部署や各病棟において研修会開催と注意喚起を行うことになりました。



医療機器安全管理者ともっとクロス

医療安全推進室と連携して医療機器の適正な操作について研修会を開催しています。特に使用頻度の高い輸液ポンプやシリンジポンプの研修会は、看護師全員参加を目標に、全病棟での開催と予備日を設け実施しています。また、重要性の高い人工呼吸器の取り扱いやモニタのアラームと安全管理などについても、できるだけ多くのスタッフに参加していただけるよう病棟の都合を聞きながら勉強会を開催しています。



医療機器安全管理責任者や医療安全全国共同行動では、医療機器の安全な操作と管理を担当したり、透析機器安全管理委員会を取りまとめたり、医療機器中央管理や院内巡回を実施するなど医療機器の安全に関することは、臨床工学技士という認識が浸透した感があります。

しかし、医療機器台帳管理については、バーコード管理がまだ実施されておらず、課題は多いと思っていますのでこの機会に他の赤十字病院の皆様にお知恵を拝借し、より良い管理ができるようにしていきたいと思っております。

真岡市キャラ「コットベリー」

医療機器安全管理者から一言



次は 小清水赤十字病院からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



鹿児島赤十字病院 事務部会計課 城 憲一郎

TEL 099-261-0120 E-mail kaikai-me01@kagoshima-med.jrc.or.jp

あいさつ ...

平成19年4月より厚生労働省からの通達で各医療機関の保守点検が義務付けられました。それに伴い当院でも平成20年4月より、臨床工学技士が配属されました。1人ではありませんが、機器管理業務を行っています。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

- ・輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器、ネブライザの集中管理を行い効率的に機器の運用を行っています。
- ・ME機器でメーカーのメンテナンス講習があるものは全て受講し、当院内で保守点検、修理を行いコストダウンに努めています。
- ・定期点検は、専用のメンテナンス治具、校正器、測定器を用いて行い、電気的安全性の点検まで行っています。高価で購入が難しい測定器はレンタルしています。
- ・メンテナンス内容をデータ蓄積しており、今後のメンテナンスに活かすようにしています。
- ・機器には点検済シールを貼り、いつ点検したか次回点検はいつかを分かるようにしています。



シリンジポンプTOP-5500
測定・校正器



人工呼吸器 測定器



シリンジポンプTE-332S
閉塞圧測定・校正治具



ECGシュミレータ

医療機器安全管理者ともっとクロス

毎年新人看護師を対象に輸液ポンプ、シリンジポンプの講習を看護部と協力して行っています。今後は、RSTチームと共同で人工呼吸器、呼吸管理の勉強会を行っていく予定です。

医療安全・知恵の輪！



～医療機器安全編～



小清水赤十字病院 臨床工学技士 石川 一史

TEL 0152-62-2121 E-mail kazufumi_caster@yahoo.co.jp

北海道小清水町は、豊かな自然に囲まれた人口約5500人の農業の町です。夏には小清水原生花園に色とりどりの花が咲き、冬にはオホーツク海に流氷が押し寄せます。気球の町としても知られ、毎年2月にはバルーンフェスティバルが行われます。気球の上から見る流氷は圧巻だそうです。(筆者は高所恐怖症なので乗っていませんが…)。

ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院は病床数99床の小規模病院ですので、医療機器の台数もさほど多くありません。そこで今年度より、臨床工学技士が管理している機器に加え、それ以外の**全ての医療機器**に関して臨床工学技士が一元管理することとし、その為のシステムを構築、院内での統一を図っているところです。具体的には全医療機器のデータベースを作成し、機器の購入年数、取扱説明書・添付文書、保守点検の状況等を一覧にしました。また新規購入時の機種の種類や購入後の保守点検内容の取り決め等、医療機器が安全に扱われるために臨床工学技士の観点から病院、各部署ユーザーへのアドバイスをを行っています。

医療機器安全担当者ともっとクロス

看護部と協働し、年1回は各医療機器の研修会を行っていますが、全体で行う内容はどうしても基礎的内容に終始してしまいます。人工呼吸器のように複雑な機器に関しても少し掘り下げた内容で行って欲しいとの依頼があり、数年前より人工呼吸器のスキルアップ研修を実施しています。少人数制(7～8人)とし操作方法以外にトラブルシューティングや口腔ケア等幅広い内容で実施しています。少人数にすることで質問もしやすく、勉強になると好評です。今後は他の医療機器についても行っていきたいと考えています。

いざ全ての医療機器を管理すると言ってはみたものの、検査機器とか放射線機器とか実際よく分かりません…。しかしながら安全な医療を提供するために他部署と「もっとクロス」してクリアしていきたいと思っています。

医療機器安全管理担当者から一言

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～

山口赤十字病院 臨床工学技士 小野 哲晴

Tel 083-923-0111 E-mail info@yamaguchi-redcross.jp



ちよるる



2011

あじあけ山口国体
あじあけ山口大会



「県庁所在地なのに人口がその都道府県で1位ではない・・・」
これは日本で5都市しかありません。そのうちの1つが山口市です!!!
そんな山口市を流れる川では、毎年「蛍」が輝き、地元生きる笑顔
を照らし続けています。また、今年は国体も開催予定!!!

山口赤十字病院には臨床工学技士が5名在職しており
主に【医療機器管理】【呼吸器管理】【血液浄化】を行なっています。

ウチの①と②押し！ ～医療機器編～

① 当院では、輸液・シリンジポンプの中央管理を今年度から実施しております。以前までは部署別
で管理を行い、点検日になると「MEが回収」or「各部署が依頼」となり、点検日を過ぎていたのにも
かかわらず使用していることも多々ありました。これを防ぐ為に、今年度からの中央管理では貸出
と返却場所が混同しないように「階」を別にし、いつでも「正常」「清潔」「安全」な医療機器を使用す
ることが出来るようになりました。



Before



順番に取ってほしい・・・



After



点検カード

② ポンプ使用中の安全を強化する為、「使用前・使用中点検カード」をポンプ全てに取付。また看護
部と協力し、看護師が点検し実施後は「持続静脈内注射チェックシート」に記入する事になっています。

医療機器安全担当者ともっとクロス

昨年より「医療機器管理委員会」を設立しました。委員は各部署1名と臨床工学技士から構成され
ており、他部署と臨床工学技術課との連携を深める為にも3ヶ月に1回開催しております。この委
員会により上記「中央管理化」や「ポンプ使用前・中点検カード設置」を実現化してきました。医療機
器の安全な管理と使用において、今後益々の連携が必要となっていきます。各職種、医療機器の安全
に関する意見を自由に協議でき、実現に持っていける委員会となれるよう、発展させていきたいで
す。

また、院内では「医療安全推進室」と協同し、医療機器の講習会を積極的に行っております。



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



成田赤十字病院 臨床工学課 平岡 裕之

TEL 0476-22-2311 E-mail me_hiraoka@naritasekijyuji.jp

あいさつ ...

成田赤十字病院は千葉県唯一の赤十字病院です。近隣には成田山新勝寺や成田国際空港があり、古き日本の伝統と国際色が融合した都市です。国際空港に隣接した病院として、院内の感染対策だけでなく、日本国内に3か所しかない特定感染症病床を持ち、海外からの感染症の脅威に対し即応体制をとっています。

ウチの一押し！ ～医療機器編～

現在、ME管理の機器は800台を超え外見だけでは機器の区別が困難になりました。

そこで、現場で台帳を開くことなく機器の属性や導入時期が分かるように“ME機器番号”を設定し活用しています。

今後はラベルの色で消費電力の区別ができるようにと思っています。



1文字目：機器の特性・重要度

2文字目：機器の種類

FB-0629

1ケタ目：属性(購入・リース)導入時期
3ケタ：通し番号

医療機器安全管理者ともっとクロス

当院では、平成18年より現場の看護師を対象にポンプ指導員制度を制定しています。取得には指定の講習を受講し認定試験に合格しなければなりません。また、有効期間は3年間で更新するためには活動実績の提出と更新講習の受講を義務付けています。

現在、約60名のポンプ指導員が“身近に聞ける専門家”として各現場で活躍しています。



管理機器はまだまだ少数ですが、さらに医療機器を効率よく、かつ安全に使用するために各部署と連携しよりよい“医療機器の安全管理”をめざしています。

今年は節電のため“室温調節”が大変ですが暑さに負けず頑張りましょう！

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



日本赤十字社長崎原爆病院 医療機器管理課 伊東・小丸・森田

TEL 095-847-1511 E-mail itou-m@nagasaki-med.jrc.or.jp

はじめまして！

長崎原爆病院 医療技術部 医療機器管理課(通称ME室)です。
当院のME室は平成20年に新設された新しい組織であり、人員は3名です。
2名(合計年齢100歳超え)は臨床検査技師を兼務、専任MEは1名(20代)で業務しています。当院は外来透析室を設備していないので、心カテと医療機器管理を中心業務としています。年々ME業務は増加していますが、増員を目標に、何とか頑張っています。

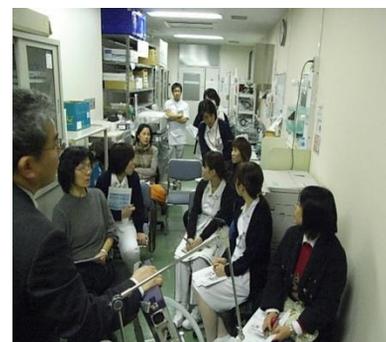


日赤長崎原爆病院

ウチの一押し！ ～医療機器編～

2003年から機器の統一化・中央管理を始め、2008年にME室が出来たことにより輸液・シリンジポンプ・人工呼吸器の中央管理がほぼ定着しました。そして年々中央化の機器が増え、ネブライザー・低圧持続吸引器・センサー関連(離床センサー・徘徊センサー・うーご君)等も管理するようになりました。最近では、台数の少ないSCD(下肢静脈血栓予防器)の中央管理も始めました。

またこれらの機器は、システムで管理していて24時間いつでも貸し借り出来るようにしています。

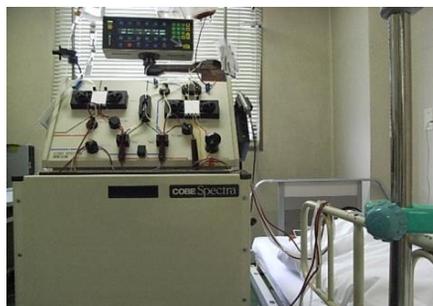


医療機器安全管理者ともっとクロス

医療安全3者ラウンド(機器・薬剤・RM)を毎月実施し、工学技士は、事務局を担当しています。

機器では、人工呼吸器使用時のトラブルや、中央管理機器の適正台数や運用方法などについての問題があり、必要に応じた操作研修会の開催、関連部門との調整等に努力しています。

また医療機器管理委員会や医療機器管理チーム会議では、各部門の機器の更新と統一化を目標にしています。



医療安全・知恵の輪！



～医療機器安全編～

富山赤十字病院 医療技術部 臨床工学技術課 中嶋 博
Tel:076-433-2222 E-mail hiro.n-tcehd@toyama-med.jrc.or.jp

当院は、平成8年8月「とやま都市MIRAI計画」、「富岩運河環水公園」の整備事業区画に新築移転しました。また兩岸の広大な緑の広場とあいまって、運河の豊富な水を利用し、風光明媚な景観を有する環水公園は、富山市の新しい人気スポットになっています。

当院の臨床工学技士は少数精鋭？の3名で、呼吸・循環・代謝及び医療機器管理全般を行っています。

モットーは、みんなで、「良く話し合い」「助け合い」「仲良く」を

合い言葉に全ての臨床工学業務に精通した・・・・・・・・・・

『スペシャルなジェネラリスト』を目指し、日々業務を行っています。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

厚生労働省が明示している法令の遵守を行うため、平成21年5月より医療機器管理体制の抜本的な見直しに取り組みました。『基本方針は外来・病棟の全医療機器を中央管理する』とし、医療機器管理室・医療機器保管室の設置及び医療機器の安全・効率的な運用管理を目的に、医療機器管理システムの導入を図りました。中央管理機器（現在：17機種434台）は全てバーコードで登録され、機器情報、保守点検履歴及び貸出・返却等機器の運用を一元管理しています（平成22年7月より運用開始）。

当院の一押しは、院内LANを活用し関連部署（外来・病棟等）とネットワークを構築し、各部署の電子カルテ用端末PCから、リアルタイムで医療機器の運用状況等の閲覧を可能としたことです。また、臨床工学技士への連絡や機器のトラブル等はメールにて対応（緊急時はPHS）しています。

医療機器安全管理者ともっとクロス

今期の目標は、機器管理システムを活用して医療機器毎の簡易使用法及び使用時の注意事項等を記載したPDFファイルを開覧すること、また平成23年度臨床工学技術課の新規事業として導入されたタブレットPC（Wireless）を用いて医療機器管理室で管理出来ない機種を、臨床現場（病棟等）で管理することです。これらにより医療機器の安全管理を推進していきたいと思えます。

平成22年度の医療機器安全管理研修では看護部と連携し

- ① 医療機器システムの管理
- ② 人工呼吸器の実践的な使い方（新人看護師と看護師を分け年23回開催）
- ③ 輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な使用法
- ④ 看護サイドから見た人工心肺・PCPSの知識

など臨床工学関連業務の安全管理の周知に積極的取り組んでいます。



医療機器管理室(40m²)



CCUでの心筋症治療(PCPS-IABP)



人工心肺(弓部置換術)



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療安全課

次は 盛岡赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



三原赤十字病院 管財課 医療機器管理係

Tel. 0848-64-8111 E-mail touseki@mihara.jrc.or.jp

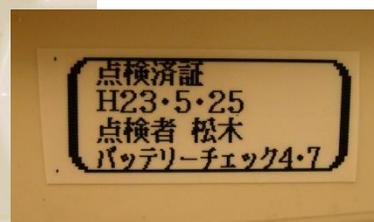
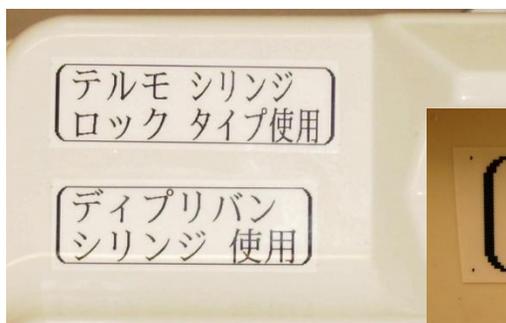
当院は、広島県南部に位置する病院です。現在、臨床工学技士は3名で血液浄化業務、医療機器管理業務を中心に従事しています。2010年10月には新病棟が竣工し、新しく医療機器管理室も設置され、輸液ポンプ・シリンジポンプの中央化を開始しました。日々、使用後点検、定期点検に対応し、スタッフ全員でがんばっています。



昨年10月に竣工した新病院

ウチの一押し！ ～医療機器編～

- ・当院のシリンジポンプは機種統一を進めていますが、完全統一までには至っておりません。その為、安全管理上使用できるシリンジが分かるようにシリンジポンプ毎にシールを貼付しています。
- ・輸液ポンプ・シリンジポンプ使用中には、チェックリストに従い使用中の動作チェックを実施、使用後には必ず使用後点検を行い点検済証シールを貼り点検日がわかるようにしています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

- ・当院では、定期的な医療機器に関する研修会（輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器、除細動器・AED、医療ガス・ポンベの取扱いなど）を実施しています。新入職の看護師だけでなく院内の全ての看護師、その他コメディカルも対象とした研修会を開催し、医療機器の安全管理に取り組んでいます。



医療機器管理係のメンバーです

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～

盛岡赤十字病院 臨床工学技術課 法領田 浩輔

TEL 019-637-3111 E-mail ce307@moriokajrc.or.jp



あいさつ … 盛岡赤十字病院には臨床工学技士が5名おり、血液浄化業務、機器管理・手術室業務、循環器業務をローテーションで分担しています。岩手山の迫力と北上川のせせらぎを身近に感じることができる病院です。盛岡の名物と言えばやっぱり冷麺にじゃじゃ麺にわんこそばです。他にも南部せんべいや福田パンなど、盛岡でないと味わえない食べ物がたくさんあります。



透析室



麻酔器点検中



テンポラリーPMU

ウチの一押し！ ～医療機器編～

盛岡赤十字病院の医療機器管理の特色は…

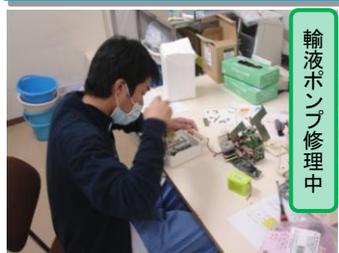
- ☆輸液ポンプの台数が95台、シリンジポンプは40台と、決して多い方ではありません。しかし、5年程前より病棟の定数配置を無くし、完全中央管理にした結果、台数の不足が軽減され、購入台数の抑制に繋がりました。
- ☆使用した保育器は、パーツを分解・消毒し、組み立て後に使用前点検を実施しています。
- ☆今後、患者監視装置の中央管理化を検討しています（現在はまだ分散型中央管理です）。

医療機器安全管理者ともっとクロス

盛岡赤十字病院の臨床工学技士は、5名全員が下記の保守点検ライセンスを取得し、医療機器の安全管理に日々励んでいます。

- ☆輸液ポンプ (TE-112、TE-131、OT-808)
 - ☆シリンジポンプ (SP-115)
 - ☆人工呼吸器 (ニューポ-トe500、ニューポ-トe360)
 - ☆電気メス
 - ☆パルスオキシメータ (N-550/N-560)
 - ☆低圧持続吸引器 etc..
- 各修了証40余枚は、すべてMEセンターの壁一面に大事に飾ってあります。

保育器分解・消毒中



輸液ポンプ修理中



人工呼吸器点検中



修了証



PTA

臨床工学技士とは何を生業とするのか、まだまだ浸透していない部分もあると思います。だからこそいろいろな業務に積極的に参加し、アピールすることが大切です。未来の臨床工学技士のためにも、確固たるものを創り上げていきたいと思っています。

医療機器安全管理者から一言

東日本大震災から3ヶ月の月日が流れました。被災地からの透析患者の受入れや、薬剤不足等の危機的状況が続きましたが、皆様のあたたかいご支援のおかげで乗りきることができました。ありがとうございました。

平成23年7月15日 Vol.51

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



諏訪赤十字病院 臨床工学技術課 宮川宜之

TEL: 0266-57-6020 E-mail: nobuyuki-miyagawa@suwa.jrc.or.jp

信州有数の観光地、諏訪湖畔に諏訪赤十字病院は位置しています。南に霊峰富士、北に穂高連峰が望まれる絶景スポットです。

当院の臨床工学技士は14名で、手術や血液浄化などの臨床業務に従事しつつ、医療機器の管理や安全使用に関する情報発信で病院の安全対策に貢献しています。



【病棟デイルームからの風景】



【ローテーションで業務に従事しています！】



ウチの一押し！ ～医療機器編～



【病棟での出張点検】

医療機器には全台バーコードを貼付し、安全点検システム『MARIS』により貸出・返却・点検・修理を管理しています。

MEセンターに返却されない機器（病棟で使いまわしている機器や分散管理されている機器）の定期点検遅れを予防するため、昨年度より各病棟へ定期的に訪問し、“出張点検”を開始しました。機器点検率の向上を進めています。

医療機器安全管理者ともっとクロス

当院では医療機器安全管理責任者を委員長として、「医療機器安全管理委員会」を設置しています。委員は副院長を含む医師6名、看護師3名、コメディカル5名、事務2名です。この委員会では、医療機器の更新・修理計画やインシデント事例に対する対策など様々なことを検討しており、研修会の年間計画を策定し開催することも重要な役割のひとつです。

これらの研修会の中のひとつに、新人看護職員を対象の“輸液、シリンジポンプの取扱い講習会”があります。講義と実技（マンツーマン）を組み合わせ実施しています。また今年度からは、全看護職員の技術確認と標準化を目的にフォローアップ研修を開催しています！



【フォローアップ研修】

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



唐津赤十字病院 医療技術部 検査技術課 臨床工学技術課長 加勢田達矢
Tel 0955-72-5111 E-mail tatsuya-kaseda@karatsu.jrc.or.jp

当院の所在地である唐津市は、佐賀県北西部に位置します。2005年に周辺八つの町村と合併し、佐賀市に次ぐ人口約13万人の新唐津市となりました。夏は玄界灘の豊富な海の幸が堪能できますし、秋には国の重要無形民俗文化財に指定された勇壮な唐津くんちに多くの観光客が訪れます。当院は唐津市の中でもさらに北西に位置し、地域中核の医療機関としての役割を担っています。



唐津赤十字病院

唐津城と藤棚



唐津くんち



バルーンフェスタ
佐賀インターナショナル



ウチの一押し！ ～医療機器編～

医療安全委員会からの依頼などで、新人看護師でも心配なく勤務出来るようシリンジポンプや輸液ポンプなど機種バージョン毎の簡易マニュアル作成や、夜間は看護師による管理となるCHDFでは、トラブル毎の対応表カードの作成などにも取り組んでいます。簡単な警報は看護師で対処でき、治療中断のリスクが軽減されました。

新旧タイプごとの簡易マニュアルなど



唐ワ:



医療機器安全管理者ともっとクロス

平成8年以降、臨床工学技士は透析室勤務1名と、検査室との兼務1名体制で主に透析業務に関わっていましたが、業務内容拡充に対応するべく平成23年度より臨床工学技士が1名増員となりました。今後のME室立ち上げに向け準備中です。

研修中の新人臨床工学技士



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～

栗山赤十字病院 臨床工学技士 遠藤 秀介

TEL 0123-72-1015 E-mail krh-hdc@px-c.net



栗山町は、札幌市内から1時間程の場所に位置し、人口約1万4千人の自然豊かな町です。国蝶オムラサキを観察できる栗山公園には、野球場やバーベキュー広場などの設備が充実しています。春になれば桜並木が満開となり、今の季節は藤の花が咲いています。公園内の「なかよし動物園」は子供たちや家族連れで毎日にぎわっています。

ウチの一押し！ ～医療機器アナログ的管理編～



他院と比べると機器の種類も数も少ないのですが、各病棟にはME機器を定数配置として、それ以外のものをMEセンターで点検、交換する管理をしています。人の導線が少なくなり、少ないスタッフでも運営できるよう工夫をしています。また、ホワイトボードやノートなどの簡便さを十分に活用し、管理が容易になっています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

当院は4名の臨床工学技士(ME)で透析業務とME機器管理業務を行っています。

MEセンターでは、人工呼吸器、輸液・シリンジポンプ、除細動器等の講習会を、看護スタッフを対象に行っています。

また、輸液ポンプを適正・安全使用するために、使用薬剤に応じ、ME管理の下、点滴制御型と流量制御型を使い分けています。

今後も他部門と協力し、院内のME機器を安全に使用できるよう

MEの力を発揮したいと考えています。まだまだ発展途上の私達です！



医療安全・チームの輪！

～チームワークも安全編～

チームワークを大事にし、医療安全に取り組んでいます。

医療機器安全管理者から一言

医療安全・知恵の輪！



～医療機器安全編～

裾野赤十字病院 会計課ME室 梶 正義

TEL 055-992-0008 E-mail susono@h2.dion.ne.jp

あいさつ ...

こんにちは。裾野赤十字病院です。静岡県東部の、富士山の麓に位置する病床数116床、5つの診療科の病院です。富士サファリパークや遊園地グリーンパ、スノータウンイエティーなどの観光スポットや、トヨタのテストコースなどもある雄大な自然豊かな地域です。現在技士は1名ですが多職種のスタッフに協力してもらい機器安全管理に努めています。



【病院屋上からの富士山】



ウチの一押し！ ～医療機器編～

- ・現在輸液ポンプは同一メーカーであっても、購入時期により機種や制御法(滴下、流量)が異なります。更新時期を利用し今年度より機種統一を計画しています。
- ・呼吸器がバッテリー非搭載の為、停電時対策の徹底と共に搭載型への更新を計画しています。
- ・計画停電の自家発電時に、非常用コンセントの通電確認と共に容量内で停電時に使用したい機器の再考を行なっています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

医療安全推進室と連携し、年2回の医療機器に関する職員研修会を担当しています。また、各病棟単位で新人対象の医療機器勉強会や新規導入器材の説明会を随時開催しています。医療機器等でわからない事や自信のないものについては、朝・夕のラウンド時や見かけた時積極的に声を掛けてもらい、できるだけ早く解決できる様に心がけています。

前任者の副院長の転勤にともない、今年度より医療機器安全管理者を引き継ぐこととなりました。3年前、当院初の臨床工学技士として着任し現在も1名での業務ですが、自分の生まれた病院でもありますのでさらなる医療安全に取り組んでいきたいと思ひます。

医療機器安全管理者から一言

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



深谷赤十字病院 医療技術部 臨床工学技術課 東使 明

TEL 048-571-1511 E-mail me@fukaya.jrc.or.jp

深谷市は江戸時代以降中山道の宿場町とされ発展しました。県下有数の農産地帯で、深谷ねぎは日本一の出荷量を誇り、第一国立銀行の創立、渋沢栄一誕生の地でもあります。当院は昭和25年に開設し、その後、増改築、新築工事を経て現在506床標準診療科20を擁しています。臨床工学課では5名のMEが透析部門、心カテ部門、手術部門、ME機器管理部門を担当し、緊急時にも対応しています。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院で医療機器の安全について、工夫して取り組んでいる対策について紹介します。ME機器管理室にある装置「うーご君、マルチケアコール、タッチコール、コールマット、ベットコール」を使用 방법이分からないまま病棟で使い、「故障している」とMEに連絡されることがありました。特にコールマット、ベットコールなど使用方法を間違えることがあるため写真入りで使い方の説明表示をしました。

医療機器安全管理者ともっとクロス

毎年年末に多目的ホールで恒例の医療安全委員主催による医療トラブル時のシミュレーションを行っています。観客は職員約90名で、昨年は臨床工学課による「透析施行時による急変時の対応」を行いました。2ヶ月前からシナリオを作成し終業後や休日を利用し、毎日3時間程度の練習を行いました。優秀な俳優がそろっているわけではないので、台詞通りにやらなかったり、とんでもないアドリブが入ったり、立ち回りが悪かったりと、一時はどうなる事かと思いましたが、本番ではtake2、take3のない一発勝負なのでスタッフ全員、気合の入った演技で無事終えることができました。内容は心疾患のある患者が透析開始2時間後にVTを起こし心臓マッサージを行うが、Drの到着が遅れAEDを使用するというストーリーで、劇の後にAEDのスライドによる説明とビデオを上映し、90分程度で終了しました。今後も医療トラブル時のシミュレーション発表を継続して行い、医療安全に生かしていきたいと考えています。

ベットコール



貸出し前



返却後

タッチコール



うーご君



マルチケアコール



コールマット



アンビュバックを使用し心臓マッサージを行う練習風景

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



鳥取赤十字病院 医療技術部 臨床工学技術課 細田 千昭
TEL 0857-24-8111 E-mail c-hosoda@tottori-med.jrc.or.jp



当院の外観

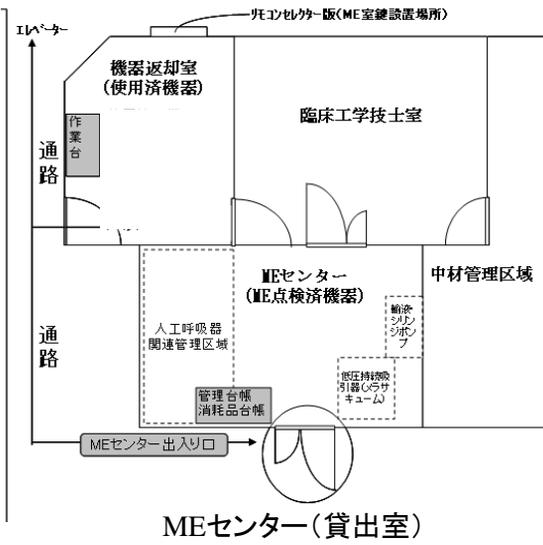
鳥取県は、日本海に面し、中国山地を有した緑豊かな県です。当院は、鳥取市街地の中心部に位置し、鳥取県東部医療圏の中核病院として地域医療に貢献しています。

当課は、平成19年4月に新設、平成20年9月にMEセンターを開設し、現在4名体制で、血液浄化・心カテ・呼吸器・ペースメカ・手術室・機器管理業務等に対応しています。まだまだ課題も多いですが、業務改善や確立を行いながら、忙しい日々を送っています。

ウチの一押し！ ～医療機器編～

輸液/シリンジ/経腸栄養用ポンプ・低圧持続吸引器・人工呼吸器をMEセンターにて中央管理しています。MEセンターを機器貸出室と機器返却室に分けることによって、点検済み機器と使用后機器の混在をなくすようにしています。

当院の医療安全管理委員会では、5S活動に取り組んでいますが、当課でも技士室やMEセンター内の整理・整頓に取り組んで作業環境を整え、安全で効率のよい業務を目指しています。



MEセンター（貸出室）



医療機器安全管理者ともっとクロス

毎週火曜日の勤務終了後、院内の全体研修とは別に課内で勉強会を開催しています。まだまだ経験年数の少ない当課では一人ひとりのスキルアップや情報共有が不可欠です。ME以外のスタッフも参加できるようにしており、勤務中にはゆっくり学習する時間を確保することが難しいので、新人MEはもちろん、ME以外の他のスタッフにもなかなか好評です。



平成22年12月より、Dr、Ns、PT、MEによる呼吸ケアチームを発足しました。毎週火曜日に、院内ラウンド・カンファレンス等を行い、人工呼吸器管理の統一・マニュアルの作成・患者の早期離脱等に努めています。

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



清水赤十字病院 臨床工学技術課 村谷 拓
TEL 0156-62-1025 E-mail rcs-touseki@ymail.plala.or.jp

清水町は、人口約10000人、北海道十勝平野の西部に位置する「道東の玄関口」。町名はアイヌ語で「明るく清らかな川」を意味する「ベケレベツ」から由来しています。また、1980年にベートーベンの交響曲第9番を、全国の市町村としては初めて合唱した（町民合唱団と札幌交響楽団の競演）ことから「第九のまち」としても知られています。最近では、道内のご当地グルメ大会で準優勝に輝いた「牛玉ステーキ丼」をPRしています。清水町にお越しの際には是非ご賞味ください。

ウチの一押し！ ～医療機器編～

- 2006年から機器を統一する方針で中央管理をはじめ対象機器を少しずつ増やしてきました。来年度からは透析センター増改築に伴いME室も出来ることになり、更なる医療機器の安全管理体制の強化をしたいと思います。
- 医療機器の安全管理使用方法等を「ME機器通信」で各部署に連絡し情報を共有化できるようにしています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

- 誰もが同じ認識で医療機器を使えるように、臨床工学技術課では新卒看護師対象に人工呼吸器や輸液・シリンジポンプ、除細動器の勉強会を開催しています。勉強会後はテストで理解度を評価していますが、今後は指導する側の評価も大切かと考えています。
- 輸液・シリンジポンプ使用時には必ずチェック表の記入をルール化することで責任の所在を明確にする事と稼働状況を客観的に評価し次年度の購入更新資料として役立てています。今では全部署に周知され共通のルールとして浸透しています。



医療機器安全管理者から一言

医療安全推進室に兼務となり月2回行われている医療安全推進室会議では、院内のインシデント事例の分析を行い医療機器に関わる事例に関しては積極的に対策を提案しています。機器情報を院内で共有化できる様、臨床工学技士一同努力していきます。



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



長浜赤十字病院 臨床工学技術課 中川 輝彦

TEL 0749-63-2111 E-mail xxx@xxx.jrc.or.jp

長浜赤十字病院です。
と言っても、みなさんどこにあるかご存知でしょうか!?
滋賀県の北部にあります、それでもピンとこないと思います(^_^;)
今話題の大河ドラマ『江』の舞台となった浅井・小谷城は実は、長浜市にあるんです。他にも豊臣秀吉が建てた長浜城と意外にも(笑)
歴史ある街なのです。そんな長浜にみなさん遊びに来てください!!



【平成24年夏竣工予定の新2号館】

ウチの一押し！ ～医療機器編～

人工呼吸器の警報にいち早く対応出来るように、無線警報装置を取り入れています！人工呼吸器 (servo i)からの警報信号が発信機に入り、手元の受信器へ送ります。生命維持装置の信号なので、あえて院内PHSとは別の単独無線システムを組んでいます。担当看護師は、呼吸器警報用受信器を持って業務についています。混信や電波切れがないように警報装置の設置については、臨床工学技士が請け負っています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

当院での心カテは、医師を中心に、看護師、放射線技師、検査技師、臨床工学技士が行っています。それぞれ業務分担がありますが、急変時や人手不足になる夜間の緊急カテでは、皆で助け合う必要があります。普段はMEが行う生命維持装置などでも、多職種が集まり急変時対応の勉強会を行っています。



今年から病院の一部改築が始まりました。その中には透析室、カテ室、救命センターも含まれ、MEセンターも広がります。今後さらに多くの機器の中央管理化ができますので、安全で整備された機器を提供していきます！



【臨床工学技術課一同】



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



大森赤十字病院 医療技術部 臨床工学技術課 菅 昇二

TEL 03-3775-3111 E-mail me@omori.jrc.or.jp

東京の玄関、羽田空港に一番近い赤十字病院です。
また、日蓮上人で有名な池上本門寺もすぐそばです。季節によっては病院西側の窓から、五重塔に沈む夕日を望むことができます。
当院の臨床工学技士は3人。みんな40歳以上ですが、血液浄化や心臓カテーテル検査、医療機器の保守・管理を頑張っています。



【10月に完成する新病院！】

ウチの一押し！ ～医療機器編～

昨年、病院改築工事のうちの一工事部分が完成し、MEセンターが手術室やICU、透析室に隣接しました。これによって緊急性の高い人工呼吸器をはじめ医療機器の移動がスムーズになり、移動にかかる時間も大幅に短縮できました。

また臨床工学技士3名は基本的に透析室勤務なので、医療機器の貸出・返却受付に必要な常駐スタッフをMEセンターに配することなく、効率的に業務をこなすことができます。

今年から人工呼吸器管理下にある患者様の移動時(病棟⇄ICU)に搬送用小型レスピレーターの使用を始めました。さらに臨床工学技士が付き添うことにより看護師、医師から高い評価を受けています。

医療機器安全管理者ともっとクロス

毎年、看護部と共同で新人を対象とした人工呼吸器や輸液ポンプ・シリンジポンプ、医療ガスの安全な取り扱い等の講習会を行っています。

特に医療ガスの講習会では、実際に酸素の燃焼実験等を行っていて、酸素の引火性やそれによる危険性がよくわかると大変好評です。

また週に一度、医療安全管理対策委員(副院長、医薬品安全管理者、医療機器安全管理者、専従リスクマネージャー、事務局)は、昼休みを利用したランチョンミーティングを行っています。

温泉好きなおじさんです。
最新鋭の医療機器が購入されるたびにドキドキしていますし、分厚い取扱説明書との格闘は大変です。
でもそんなストレスも温泉に入ってさっぱりと。ストレス解消は医療事故回避にも役立ちます。
皆様もご自分なりのストレス解消法をお持ちですか？



医療機器安全管理者から一言

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



岐阜赤十字病院 ME管理係 梅染 佳記

TEL 058-231-2266 E-mail gifu-med.me@gifu.email.ne.jp

こんにちは、岐阜赤十字病院です。
清流長良川に隣接し信長ゆかりの岐阜城を望むことのできる
300床の地域密着型の病院です。
平成19年12月の新病棟増築と同時に医療機器管理室が整備され
医療機器の中央管理を開始しました。人工呼吸器・輸液ポンプ・
シリンジポンプなどを中心に管理しています。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

現在は、血液浄化・心カテ・医療機器管理を中心に業務をおこなっています。
医療機器の中央管理は年月が浅いことから管理機器の増台を現在進行形で進めているところです。よって、どんな機器でもどんな依頼でもすぐに現場に見に行くことを心掛けています。
また、ME機器の医療材料から病院全体の医療材料の購入やコスト管理などにも積極的にかかわっています。コスト意識を持つことは今後更に重要となると考え、新人のうちから意識を持つように指導しています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

医療機器の安全管理を維持するためには他部署の協力が不可欠と考えます。
当院は看護師をはじめとしてコメディカル・事務の方々まで職員同士の繋がりがとてもよくお互いが協力的です。いつでも気軽に話しあえる環境です。このことは私たちMEが医療機器を管理をする上でとても大きなメリットとなっています。

今後もこの繋がりと絆を大切にして・・・もっとクロスしたいと思います。



現在、臨床工学技士4名、医療助手1名、平均年齢30歳といった若さを武器にして積極的に業務拡大を目指しています。

『MEさんは院内のどこにでも見かけるね...』と、言われるように頑張りたいと思います。(笑)



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



安曇野赤十字病院 臨床工学技術課 山田 吉宏

TEL 0263-72-3170

長野県安曇野市にある安曇野赤十字病院は、雄大な北アルプスを背に、安曇野平の中核病院として地域の皆様に貢献できるよう日々努力をしています。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

人工呼吸器や輸液・シリンジポンプを中心として院内の医療機器はMARIS:フクダ電子社製(医療安全管理システム)を用いて、中央管理をしています。また、新たな医療機器を購入の際は、各部署ごとに勉強会を開催し、現場の看護師さんに理解を深めていただくようにし、医療事故を未然に防ぐことができると考えています。さらに、医療機器の保守・点検では、医療機器チェッカーを用いてより精密な点検も行っています。輸液・シリンジポンプのバッテリー交換など臨床工学技士が可能な修理においては、外部委託による出費を抑えるために院内で極力修理を行っています。

医療機器安全管理者ともっとクロス

厚生労働省からの医療事故防止に関する通達があった際には、臨床工学技士が分かり易く作り直し、それを院内新聞として各部署に速やかに配布するようにしています。院内全体で周知することで同じ医療事故の再発を防ぎます。

臨床工学技士は「医師の指示のもと生命維持管理装置、保守点検を行うことを業とする」と定められています。私たちは医療機器と患者さんを繋ぐ重要な役割であり、真心を込めて繋いでいくことを常に目指しています。

医療機器安全管理者から一言

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



多可赤十字病院 臨床工学技術課 出口 英二
Tel 0795-32-1223 E-mail hospital@taka.jrc.or.jp

当院のある多可町(たかちょう)は、兵庫県の中部に位置し周りを山と川に囲まれた緑あふれる環境にあります。

八千代区は「敬老の日」発祥の地としても知られ、当院併設の老人保健施設は全国最初の開設です。地域に根ざした病院として職員一同頑張っています。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院は80床の小規模病院で臨床工学技士は2名、主な業務は血液浄化(維持透析)です。

医療機器管理は2名が兼務であったり、中央管理ではなく病棟管理体制を敷いています。

平成17年から本格的に人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、AED等の保守点検を担当しています。

各ポンプには簡易のチェックポイント、チェックリストを添付し使用者に注意喚起しています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

平成19年から医療機器安全管理委員会を立ち上げ、院内すべての医療機器について保守点検計画の策定および適切な実施を行い管理運用にあたっています。

委員会構成は臨床工学技士の他、医師、看護師、診療放射線技師、事務職等で毎月の点検状況の他、機器の修理状況も委員会で把握し医療安全に努めています。



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～

浦河赤十字病院 臨床工学技術課 内藤 嘉昭

TEL 0146-22-5111 E-mail naito@urakawajrc.or.jp



浦河は、五冠馬シンザンを生んだ町としても有名で馬上結婚式を行ったりと馬にまつわるイベントも多いです。
また秋になると鮭釣りが盛んになり海岸を沢山の釣り人が竿を立てている光景が見られます。
皆さんも一度訪れてみてはいかがでしょうか？

ウチの一押し！ ～医療機器編～

3月11日に発生した東日本大震災で被災された皆様方に謹んでお見舞い申し上げます。
当院の所在する浦河町も地震が多く筆者も2回程大きな地震を経験しています。
1度目の地震の際に透析の患者監視装置を固定していない方が機械の倒壊を防げるのではと患者監視装置を固定しない様にしていたところ2度目の平成15年に発生した震度6弱の地震の際、1台も倒壊を出すことはありませんでした。
またRO装置などは床にアンカーボルトで固定する等の措置を行っています。



医療機器安全担当者ともっとクロス

例年臨床工学技士が医療機器の基礎ということで講習会を行っていましたが、今年度から新人看護師の技術研修の一環として看護部と合同で主催することになり、講習会の内容を作成するうえでよりよい看護師の目線での意見を頂けました。
来年度からもより良い講習会とするためにもっとクロスしていきたいと思えます。



平成24年秋完成予定の新病院



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



名古屋第二赤十字病院 医療技術部 臨床工学課 山田 悌士

TEL 052-832-1121 E-mail me-yama@nagoya2.jrc.or.jp

当院は、ひつまぶし・エビフライ・きしめん・手羽先・味噌煮込みうどんなど名物の多い名古屋の東部に位置し、病床数812床・24の診療科がある中核病院として、地域医療に貢献しています。

臨床工学課は26名で、透析部門と医療機器管理部門に分かれて業務を行っています。医療機器部門は、機器管理の他に人工心肺・心臓カテーテル・ペースメーカー・呼吸器など循環・呼吸の業務も行っていきます。

ウチの一押し！ ～医療機器編～

医療機器管理センターでは、医療機器をID・バーコードで中央管理を行っています。機器の定期点検時には点検日ではなく、次回点検日を貼る事により、病棟からの機器の返却向上を進めています。またシリンジ・輸液ポンプ・低圧持続吸引器など各病棟で頻繁に使用する機器に関しては、できるだけメーカー統一することに努めています。



医療機器安全管理者ともっとクロス



医療安全ラウンド



新人看護研修



MEスタッフ技術研修



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



前橋赤十字病院 臨床工学技術課 川端下 好宏

TEL 027-224-4585 E-mail y-kawahake@maebashi.jrc.or.jp

当院の臨床工学技士は13名で、医療機器管理、心臓カテーテル検査、OP室業務、血液浄化療法などで技術提供を行っています。

当院は大正2年3月23日に開院し、群馬県の中核医療を担ってきました。平成15年3月から高度救命救急センターに認可され、平成21年2月からはドクターヘリも導入されました。緊急の心臓カテーテル検査、PCPS施行例など臨床工学技士の担う役割も日々大きくなっています。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院では人工呼吸器、シリンジポンプ、輸液ポンプなどの機器を安全管理システム「MARIS」に機器を登録し、貸出、返却、点検、修理歴の管理を行っています。

昨年からは医師、看護師への医療機器勉強会や臨床工学技士が関わる業務の勉強会を定期的実施しています。

今後はさらに管理機器の拡大を図り、より安全な医療機器の使用環境を整えていきたいと考えています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

院内全職種を対象に定期開催されている、医療安全推進者養成ワークショップでは、ME機器の安全使用についての講義を担当しています。



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



金沢赤十字病院 臨床工学技術課 岡本 長

TEL 076-242-8131 E-mail t.okamoto3287@kanazawa-rc-hosp.jp

石川県金沢市は、加賀百万石の城下町として歴史と文化が今も残る街で、当院はその金沢市の南部に位置し、病床数300床の地域に根差した病院です。

当課は、平成20年4月に発足し、現在、臨床工学技士8名（1名育休中）の若い技士が中心となり、血液浄化、手術室、ME機器管理、血管造影室、ペースメーカー、在宅機器管理等の業務に従事し、日々進化する医療機器に対して全員一丸となり、奮闘中です！

ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院では、医療機器管理室開設時より、1日2回のMEラウンドを開始し、各病棟で使用している輸液ポンプやシリンジポンプ、テレメーター等の使用状況の把握とともに、使用中の医療機器が正しく安全に使用されているか確認し、インシデントの早期発見や予防に努めています。また、今年度より、ME機器管理システムを導入し、医療機器や添付文書の登録・管理を行い、より効果的な医療機器管理を目指します。



医療機器安全管理者ともっとクロス

当院、臨床工学技術課では、医療機器の安全な使用と、トラブル防止等を目的とした研修会を年間計画を立て、医療機器に携わるスタッフを対象に実施しています。その他にも新人看護師の研修会や、現場の要望による勉強会等も開催しており、医療機器の安全使用に関して、日々の周知活動や臨床工学技士のレベルアップ！に努めています。



他部門との連携を強化し、病院や患者様にとって効果的で安全な医療機器管理体制の構築を目指し、医療安全に努力したいと思います。

医療機器安全管理者から一言



次は 山田赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



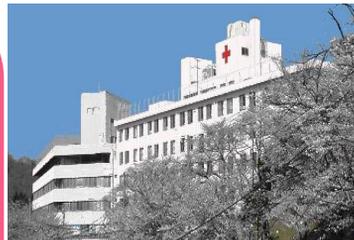
小川赤十字病院 臨床工学技術課 小暮 智己
TEL0493-72-2333 E-mail <http://www.ogawajrc.or.jp/>

当院は、埼玉県西部にある二次救急を担う302床(一般252床、精神科50床)の急性期病院です。

医療機器管理室は、2008年に開設しました。臨床工学技士2名で医療機器管理の他に、ESWL・心カテ・手術室の機器点検・病棟ラウンド等を行っております。

小川町の特産品は手漉き和紙で、1300年の歴史があります。この小川和紙を使った七夕まつりの竹飾りは北関東一といわれています。

病院は緑豊かで自然に恵まれた環境の中にあり、四季折々の草花が楽しめます。



ウチの一押し？ ～医療機器編～

医療機器管理室開設時から、新人看護師が早く安心して業務が遂行できる様に、輸液ポンプ・シリンジポンプ講習会をMEが講師となって開催しております。また、看護師対象に人工呼吸器についても年に複数回、集合研修会を開催して、安全な医療を目指して活動しています。

各病棟の勉強会にも積極的に参加して看護師とのコミュニケーションを築いています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

病棟・外来・事務の担当者が毎月1回集まり、中央管理している医療機器(輸液ポンプ、シリンジポンプ・人工呼吸器等)の運用について検討をしています。医療機器管理室からの報告(医療機器の貸出、返却、保管台数と緊急時のレンタル台数)と、その時の各病棟の状況と照らし併せて、医療機器管理サービスについて勘案しています。また随時、新規導入医療機器に関しても検討しています。

医療従事者は気づき(Awareness)感性を豊かにする努力が必要です。気づきとはハット・ピーント・ジントなることで個人差が大きいと言われていています。自分の心にある基準が様々であり、同じ現象をみても気づきに個人差が生じます。感度を高めるには、理論学習と合理的な訓練を重ねる実践力の鍛錬が必要だと思えます。

医療機器安全管理者から一言

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



山田赤十字病院 臨床工学課 辻 英昭

TEL0596-28-2171 E-mail ce.center@yamada.jrc.or.jp

当院は、昔は「おかげ参り」、最近ではパワースポットで有名な伊勢神宮の鎮座する三重県伊勢市にあります。平成25年に伊勢神宮は、遷宮といわれる20年に1度の社殿の建て替えが行われます。当院は一足早く今年末に引っ越し予定です。名称も「伊勢赤十字病院」に変更予定です。伊勢神宮にお越しの際は是非お寄り下さい。



新病院完成予想図

ウチの一押し！ ～医療機器編～

今年4月までは11名の臨床工学技士が在籍しうち3名が人工心肺・心カテ（開胸135例/年、アブレーション98例/年）とME機器の整備を行っていました。今年度新病院移転に伴う業務拡大のため4名の増員を得てこの7月よりME機器の中央管理化を行うことができる体制になりました。それまではME機器の管理は各病棟が行い臨床工学課は故障時のみの対応でした。時には、必要台数確保のためにナースが借りに病棟間を走っていました。中央管理を行うことで必要な機器を必要な場所へ整備済みの機器を貸し出すことが可能になりました。



医療機器安全管理者ともっとクロス

内蔵バッテリーの寿命が切れている機器が多く散見されます。バッテリーの残量表示はフルの表示であっても期限が切れていると規定時間より早く切れてしまったり全く動かなくなってしまう。コンセントに繋がっていないとバッテリーも放電してしまいますので使用しない場合もコンセントに繋いで充電しておきましょう。



医療機器安全管理者から一言

病棟ラウンドも現在はME機器の在庫数の確認や、除細動器・呼吸器・麻酔器等の点検業務のみですが、今後は臨床の方向へシフトしていきたいと考えております



各病棟のME機器保管棚での充電状況
コードを固定しておりその場所に置くと
自然とコードを繋ぎたくなるようにしています

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



秦野赤十字病院 医療技術課 竹内 政則

Tel.0463-81-3721

ごあいさつ …

秦野市は神奈川県西部に位置する人口約17万人の町です。当院はそんな秦野市の地域中核病院として位置づけられており5名の臨床工学技士が血液浄化、心カテ、手術室、医療機器管理などの業務を日々行っています。名物とまではいきませんが行列が出来るラーメン店としてTVで有名な『なんつつ亭』本店も秦野市内にあります。



当院の外観

各業務を行っているMEたちです

ウチの一押し！ ～医療機器編～

他施設でも紹介されていましたが、当院でも病棟等に置いてあるポンプが使用済みか使用前かが一目で分かるように点検後のポンプに点検済みシールを貼っています。この運用を行うようになり中央管理機器の回転もよくなり使用後に病棟などで放置されているポンプがなくなりました。また、この点検済みシールは患者さんにも目立つようでポンプなどを使用して治療を行う際、きちんと点検されている安心感をもっていただいているとの言葉をいただきました。



ピンクのシールが点検済みシールです

医療機器安全管理者ともっとクロス

当院では、医療安全推進室のスタッフと月に1度、院内医療安全ラウンドを行っています。輸液・シリンジポンプが適切に運用されているか、医療機器類が置いてある倉庫が整理整頓されているかなど、月ごとにテーマを決めラウンドしています。ラウンドの結果は医療安全推進室から各課へ情報発信されます。医療技術課でもラウンドの結果をもとに医療機器がより安全に使用できる方法などを部署内で検討しています。

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



高山赤十字病院 救命救急センター ME室 岩腰 博之

TEL 0577-32-1111内線1212 E-mail iryoukiki@takayama.jrc.or.jp

高山赤十字病院は、日本の真ん中に位置する岐阜県の北部、春と秋の祭りでも有名な小京都 飛騨高山にあります。市としては現在日本で1番広く、東京都とほぼ同じとなっていますが、その92.5%を原生林を含む山林で占められています。「日本の屋根」と言われる日本アルプスを望むこの地域は温泉地としても有名であり、四季を通して観光客で賑わっています。夏は暑く冬は寒い、そんな高山ですが皆さん来てください！

ウチの一押し！ ～医療機器編～

呼吸療法の質の向上と安全管理を目的に2009年7月にRST（呼吸療法サポートチーム）を立ち上げました。現在8職種40名が6部門7グループに分かれて参加しています。地域連携部門での臨床工学技士は患者さんやその家族又は患者さんに関わる他施設の方々に在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法の機器の取り扱い方を中心に指導を行っています。この部門では多職種の連携が必要になるため週1回のカンファレンスを行い情報を共有しています。その他には、小児患者さんが在宅にて吸入療法を行うために必要なネブライザーの試行貸出を行っています。患者さんの家族が安心して使用できるよう機器の操作・使用注意事項等の指導を行っています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

昨年4月に臨床工学技士が5人になり本格的な医療機器中央管理体制を始めるにあたり、「医療機器中央管理委員会」を設立しました。副院長・看護部・事務・MEの代表者及び議題内容にて必要な部署の代表者を招集して毎月実施しています。院内の医療機器の現状や機器の安全使用に関する問題点等を話し合い、より安全な医療機器の保守管理に努めています。



医療機器安全管理者から一言

昨年の4月から臨床工学技士5人体制にてME業務を行っています。地下1階の奥にあったME室も地上2階の、当たり前とは言え窓がある場所に移動、機器管理室や点検室も同時に新設していただき良い環境にて業務を遂行しています。まだまだ取り組みたい業務や取り組まなければならない業務があるなど課題は多々ありますが、ME室スタッフ一同、安全で安心な医療の提供が出来るように努力していきます。



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



長岡赤十字病院 医療技術部 臨床工学課 横山 英樹

TEL 0258-28-3600 E-mail yokoce@nagaoka.jrc.or.jp

長岡赤十字病院は、新潟県長岡市に位置し、現在の場所に移転し早14年になります。717床、27の診療科目をもつ県内最大級の病院です。長岡の夏と言えば花火！（8月2～3日）機会がありましたら是非お越し下さい。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院の臨床工学技士は現在7名で(来年度2名採用予定)透析業務、手術室業務、カテ室業務、ペースメーカー業務、ME機器管理業務を行っています。ME機器管理のなかでも人工呼吸器の保守点検は、2名で行い細かな現象もチェックできるように点検しています。チェックリストにない事象や、故障の前兆などの発見にも役立っています。お互いの意見交換、点検ポイントの確認にもなり、レベルアップに繋がっていると思います。また、メーカーのメンテナンス講習会にも参加し、定期点検ができるようになり、日々努力しております。



医療機器安全管理者ともっとクロス

医療機器は多種多様、そんな機器を昼夜問わず使用するのには、現場の看護師さん！安全に患者様に使っていただきたい。そのためには、使用マニュアルを充実させわかりやすくする、機器を統一し混乱の無いように配備する、機器使用の説明会を実施する、などの工夫が必要です。患者様の安全、日々忙しい看護師さんのお役に立てるよう、我々臨床工学技士も一層の努力をしていきます。

医療機器管理、カテ室、ペースメーカー業務など様々な分野で更に活躍できるよう努力し、知名度アップにつなげていきたいと思えます！



ペースメーカー外来の様子



医療安全・知恵の輪！

もっし



～医療機器安全編～

岡山赤十字病院 臨床工学技術課 多田羅 弘
TEL 086-222-8811 E-mail tatara@okayama-med.jrc.or.jp

岡山といえば、桃太郎や白桃やマスクットが有名じゃけど、
蒜山焼きそば、津山ホルモンうどん、日生カキオコ、デミカ
ツ丼、卵かけごはんやらなんやらB級グルメがぼっけー充実
しておるでえ。

今年の日赤スポーツ大会で岡山に来られた際にや一食べ
んとおえんでえ～

以上岡山弁でお送りしました。



ウチの一押し！ ～医療機器編～

まだ始めて日が浅いですが、臨床工学技士が医療機器担当として用度課
業務も兼務し、ほぼ全ての医療機器選定に関わっています。コスト面でのメ
リットはもちろんのこと、使いやすい機器や安全対策がとられている機器、機
種統一等の提案を行い、医療安全にも貢献しています。

購入から廃棄までトータルで携わり、安全で効率よく運用できることを目指し
ています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

看護部や医療安全推進室と協力し、汎用性が高い医療機
器の機種統一や中央管理の推進、医療機器の使用における
マニュアルやチェックリストを作成し、標準化に努めています。

医療安全推進委員会や医療機器安全管理委員会を始め各
委員会に積極的に参加し、院内の医療機器の安全使用や管
理に努めています。



安全性の向上と効率的な運用を行うため、
これからも中央管理を推進していきたいところですが、
いかんせんもう管理スペースがほとんどないんです。。
院長先生、もしこの冊子を見ていましたら他の施設の様な
新しいME室の検討を是非お願いします(笑)

医療機器安全管理者のひとりごと

医療安全・知恵の輪！



～医療機器安全編～

福井赤十字病院 臨床工学技術課 重矢 直彦

TEL 0776-36-3630 E-mail webmaster@fukui-med.jrc.or.jp

日本のおへそ、日本海側の中央に位置する福井県は、国内随一の恐竜化石の産生地、まさに「恐竜王国」です。恐竜は、隕石衝突による気温低下で絶滅したという説が有力で、その生きた時代もごく短いように思われがちですが、実は約1億6千万年もの間、地球上で繁栄しました。人類の歴史は諸説ありますが、わずか500～600万年といわれます。恐竜は人類の約30倍も歴史を刻んだ生物なのです。奇しくも福井県は男女ともに全国長寿ランキングの上位にある「健康長寿」の県です。その秘訣はおいしい「食」、豊かな「環境」、元気な「産業」にあるのかも！



ウチの一押し！ ～医療機器編～

人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ・携帯型シリンジポンプ・経腸栄養ポンプ・患者監視装置を中央管理し、機器の払い出しや返却後の点検業務を行っています。また、病院内で発生した医療機器トラブルの一次対応も行っています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

毎年、輸液ポンプのメーカー、医療安全委員会、看護部教育委員会、臨床工学技術課が協力して新人研修会を開催し、機器の使用方法やトラブルについての説明、実演講習を行います。また、当院では医療安全推進課が中心となって輸液ポンプの院内認定制度を導入しました。誰もがより安全に機器を使用出来る様に知識と技術の向上に努めています。



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



京都第二赤十字病院 救急部・臨床工学課 市木 也久

TEL 075-231-5171 E-mail ichikin@kyoto2.jrc.or.jp

当院は、京都府庁や御所等が周囲にあり、屋上からは大文字山や京都の町並みを見渡せる京都市の中心に位置しています。検査部より3年前に独立し、現在7名の技士で臨床業務及び医療機器管理環境の整備を進めております。また、京都市内の地域中核急性期病院であるため、循環器系の疾患の搬入も多く、緊急手術等はOn Call体制で対応しています。



【上空から見た病院周辺！】

ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院の臨床工学課は、現体制になってから日が浅く環境面の整備が遅れており中央管理化に至っていませんが、現場スタッフと保守点検時期等の医療機器情報を密にし、人工呼吸器をはじめME機器の状態を把握することで、ME機器の使用に支障が無いように努めています。現在は、メンテナンス講習会等を積極的に受講する等、スタッフ全員のマンパワーで頑張っています。

...が、今年6月に漸くスペースの確保ができ、機器管理の準備を開始すると共に、他部門と連携を図り、小スペースではありますが医療機器をはじめとする器材等を使用する研修室(スキルラボもどき)の準備も合わせて進めています。

不整脈治療
アブレーション・カトル



人工心肺操作

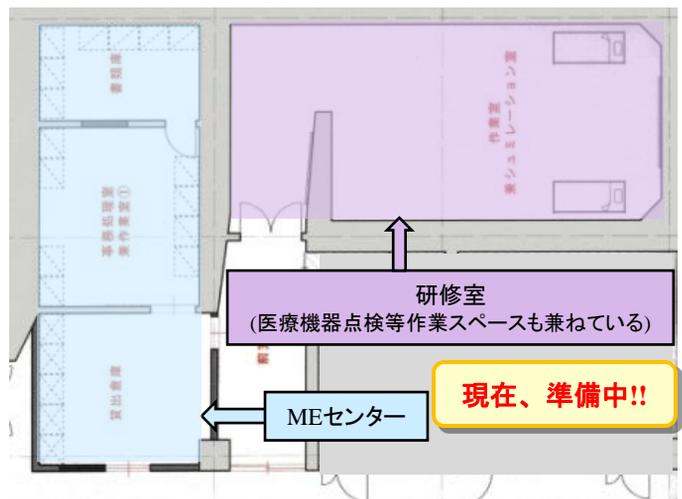


人工呼吸器勉強会

医療機器安全管理者ともっとクロス

平成21年度より、医療安全推進室と共に研修医向けに『輸液・シリンジポンプ安全使用』の研修会を開始しました。平成22年度は、『人工呼吸器の安全使用』の勉強会を全8回シリーズを実施し、医師、研修医、看護師をはじめ他職種の方々に参加して頂いています。また、1名の臨床工学技士がMSM委員会及び医療安全推進室を兼務しており、医療機器の安全使用に向けての情報提供・研修会を現状に沿って実施できるように努めています。

その他に、現在、医療機器の状態を病院に報告、更新の必要なものについては資料(安全性、機能性、コスト等を考慮)を作成し、関係部署と連携をとって更新のために必要な準備も行っています。



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



伊豆赤十字病院 透析室 西山 敦子

Tel 0558-72-2148 E-mail rc-izu@ninus.ocn.ne.jp

あいさつ ...

伊豆赤十字病院は、伊豆半島の中央に位置し天城山系の山並みに囲まれ、両側では青く澄んだ駿河湾に面し豊かな自然環境に中にある病院です。地域に根ざした病院として職員一同日々努力しています。



ウチの一押し！ ～医療機器編～



主な業務は透析です。停電時の緊急透析に対応できるよう非常用自家発電機を整えました。今年より医療機器管理を行うようになりました。人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプなどの保守点検を行っています。他の施設に医療機器の研修に行き、より安全に使用できるよう取り組んでいます。

医療機器安全管理者ともっとクロス

医療機器管理を病棟管理体制に置き、看護師・事務と連携しながら行っています。今後も他の部署との連携を強化し医療安全に努力したいと思います。



釣りとゴルフが趣味の50代の課長のもと40代、30代と年代がばらばらな技士3名ですが、協力し患者さんに安心して治療を受けていただけるよう心がけております。



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～



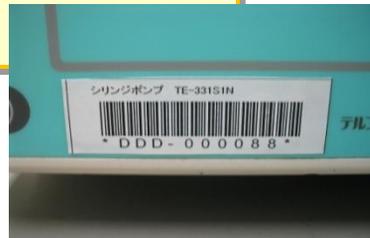
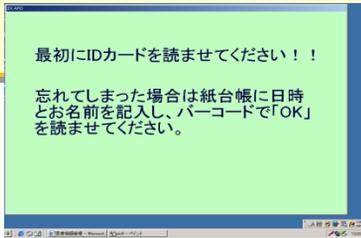
神戸赤十字病院 看護部 臨床工学 江殿 和正

TEL 078-241-6006 E-mail me@kobe.jrc.or.jp

当院は、平成15年旧病院から新病院に移転する際、兵庫県災害医療センターと共に開院しました。扉一枚で病院が変わってしまうのが特徴です。
初めての方はよく迷います。患者家族も迷います。
現在2病院で臨床工学技士は3名在職しており、3人で2病院の臨床業務及び機器管理を行っています。(大変ですが・・・)
病院からは、夏はみなと神戸花火が病院から見ることができ、冬には、1駅電車で神戸ルミナリエを見に行く事ができます。
最近ルミナリエはクリスマスまで行っていないので残念です。

ウチの一押し！ ～医療機器編～

私達は日赤・災害医療センターともに医療機器の中央管理を行っています。両病院とも、私達がオリジナルで作った機器管理ソフトを使用しバーコード管理を行っています。
特に特殊な機器管理は、行ってはいませんが、どんな事でも依頼されたら駆けつける様には、努力をしています。



医療機器安全管理者ともっとクロス

私達は、医療安全委員としての役割が与えられており、さまざまな機器の勉強会を毎年行っています。勉強会の内容としては、看護部等と連携をとりながら行っています。その他、循環・呼吸も事例等をあげながら行っています。
RSTの中心として私達が積極的に行い、呼吸管理の周知活動も積極的に行っています。



医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～

下伊那赤十字病院 臨床工学技術課 村松 彩也
TEL 0265-36-2255 E-mail s2/shom@mx2.avis.ne.jp



当院は、空と緑と清流に囲まれ中央・南アルプスを真近に望む長野県の伊那谷にある113床(職員130名)の小規模病院です。外観もさることながら院内は昭和の情緒満載で、一步足を踏み入れれば、時間の流れが止まったかの様な楽しい体験が出来ますので、最寄にお立寄りの際には、ぜひ遊びにきて下さい。



【昭和情緒満載！】

ウチの一押し！ ～医療機器編～

当院では平成23年7月1日より臨床工学技術課を設置することになりました。臨床工学の部門では非常に遅れていて、まさに、マイナスからのスタートです。全国の赤十字のMEの力を借りられれば良いなと感じています。

課員1名と頼りないのですが、まずは、19年の医療法改正以後、徹底しなければならなくなった医療機器の点検を充実させようと考えています。また、伝票、カルテ、検査結果など全てが紙ベースの病院ですので、できる部分は電子管理できるようにしようと、密かに目論んでいます。



【病院から望む南アルプスの稜線】

医療機器安全管理者ともっとクロス

病院の地域に求められる役割などから、当院の看護師さんに高度な医療機器の知識や技術は必要ありませんが、簡単な医療機器でも正確に安全に使用できるように医療機器安全管理責任者として勉強会や研修会を多く開いて行きたいと考えています。

また医療安全推進室では医療機器部門を担当しています。医療機器の安全に寄与したいと考えています。

ひとり臨床工学技術課、課員。上司もいなけりゃ、後輩もない・・・大丈夫かしら。
全国の赤十字のMEの力を借りながら少しずつやっ
ていこうかなあ、と感じています。



医療機器安全管理者から一言

医療安全・知恵の輪！

～医療機器安全編～

高槻赤十字病院 臨床工学技術課 吉岡 健太郎

TEL 072-696-0571 E-mail ce@takatsukijrc.or.jp



あいさつ ... ☆ (市章も、京都市と大阪市の市章を融合させたデザイン)

高槻市は、大阪市と京都市との中間に位置し、北摂のベッドタウンとして発展しています。高槻市北部にある摂津峡では、花見や紅葉の季節になると観光客で賑わい、「水とみどりの生活文化都市」が市のキャッチフレーズとなっている程、自然が豊かな街です。ただ、日本一住民税が高い事で知られており、その辺に関しましては、私達も大変苦勞をしています。(笑)

当院は、結核の予防と治療という目的で誕生した病院ですが、時代の変遷とともに平成9年には結核病棟を廃止。平成14年に緩和ケア病棟を開設、同12月には大阪府がん診療拠点病院の指定を受け、現在では地域医療の中核病院として、日々地域医療貢献の為、努力しています。

ウチの一押し！ ～医療機器編～

□ME室にて、輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器の中央化を行い、効率的、且つ安全に医療機器を使用して頂く環境を整えています。

□医療機器修理に関しては、ACCESSで作成したdatabaseに、修理内容、点検結果、修理結果等を入力し、data管理を行っています。



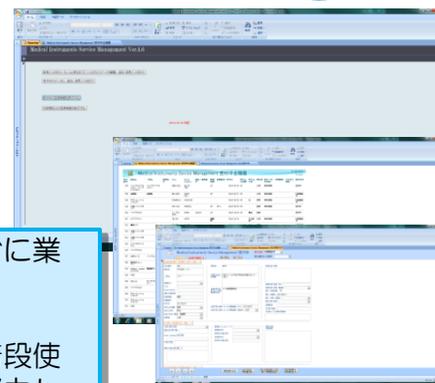
医療機器安全管理者ともっとクロス

☆全ての新規納品機器に関して、安全に使用、又、現場スタッフがすぐに業務に移行できるよう、納品後に勉強会を実施しています。

☆定期的に人工呼吸器・除細動器・その他医療機器の勉強会を行い、普段使用していない機器も、出来る限り現場スタッフに触れていただくよう努力しています。

☆現場にて使用するスタッフが分からない機器がある場合、使用方法や注意点など、その都度、現場スタッフと相談し勉強会を開くよう心がけています。

♥現場スタッフと出来るだけコミュニケーションをとるように心掛け、より安全な医療を提供できるよう取り組んでいます。



今日の医療において、医療機器を用いない医療はないと言っても過言ではありません。しかし、その種類は多種多様であり、使用方法や禁忌事項など全てを理解して使用するのは大変な事です。

私たちCEは、Userの皆様と良好な関係を作りながら、正しい知識と安全を提供していきたいと思っております。

高槻市、癒しキャラ“はにたん”

北海道ブロック研修会からの報告



釧路赤十字病院 医療技術部
臨床工学課 尾嶋 博幸

開催内容

第1回 日本赤十字社臨床工学技士会 北海道ブロック研修会
日時 平成22年11月27日(土) 17時から
会場 旭川赤十字病院 講堂

- ◎ 施設内見学 16:00～17:00 希望者のみ(当日は他施設参加者全員となった)
- ◎ プログラム
 - 16:45～17:00 受付
 - 17:00～17:05 開会の辞
日本赤十字社臨床工学技士会 常任理事 脇田 邦彦
 - 17:05～18:00 施設業務内容紹介
旭川・浦河・清水・北見・釧路・小清水・伊達・栗山
座長 旭川赤十字病院 陶山 真一
 - 18:00～19:00 教育講演「医療安全 ～終わりなき戦い～」
旭川赤十字病院 救急部 臨床工学課長 脇田 邦彦 先生
座長 浦河赤十字病院 内藤 嘉昭
 - 19:00～19:05 閉会の辞
日本赤十字社臨床工学技士会 北海道ブロック理事 尾嶋 博幸

研修会参加者

施設名 参加人数(平成23年2月在職者数)

- ・ 旭川赤十字病院 9名(9人)
 - ・ 北見赤十字病院 2名(5人)
 - ・ 栗山赤十字病院 2名(3人)
 - ・ 浦河赤十字病院 1名(6人)
 - ・ 清水赤十字病院 1名(3人)
 - ・ 小清水赤十字病院 1名(3人)
 - ・ 釧路赤十字病院 1名(7人)
-
- ・ 伊達赤十字病院 欠席



◎ 計7施設(全8施設) 17名(36人) 参加率47.2%
年齢相 40代~20代(平均30代前半)

日本赤十字社臨床工学技士会に期待すること



◎ 本社との連携を深めて我々の存在を認めて貰える組織に成長して欲しい。

本社との繋がりは非常に大切と考える。我々の職種が部や課として独立することや、それに伴う新たな役職等ポスト配置など、それらと連携して臨床工学技士の地位・存在等を認めて貰える組織になって欲しいと考える。

日本赤十字社臨床工学技士会 全体研修で取り上げて欲しいテーマ

◎ 医療安全については毎回取り上げて欲しい。

- ・ 各施設の医療機器安全管理責任者が院内でどのように動いているか、前回よりもっと掘り下げたディスカッションなど。
- ・ 医療機器安全管理責任者の権限や役職としての地位について研修会で本社の人を交えてのディスカッションなど。

ブロック研修会の感想紹介

- ・ 今回の研修会で他施設間との技士の繋がりが一層深まったと感じました。今後も継続して行きたいですね。
- ・ 同じ釜の飯を喰う仲間として親睦を深められたことは大変有意義で実に楽しかったです。
もっとたくさんの方々が出席してくれると盛り上がりますね。
参加された方は皆さん満足されたと思っています。
これからも大いに勉強(?)して、大いに親交を深めるために続けていきたいですね。
- ・ 初回から活発な意見交換などができて良かったです。
- ・ 小規模の方がいろいろな意見が盛り上がりいい面もあるのでは。
- ・ 親睦を深められ非常に有意義でした。
今後も継続してなるべく多くの方とお会いできればと思います。

北海道ブロックのトピックス

◎ 北海道内赤十字病院 臨床工学技士全員のメーリングリストの構築とその運用について

日本赤十字社臨床工学技士会の**会員・非会員問わず**、道内赤十字病院臨床工学技士全員のメーリングリストを構築。

(平成23年1月時点で個人メール 登録31人)

地域柄集まる機会が少なく、施設同士疎遠傾向になり易い。

他施設間技士同士の情報伝達的手段として利用。

利用目的として

- ・ **登録者全員への周知や個人同士の情報のやり取り**がし易くなる。
- ・ **災害時や緊急時の連絡**にも有効な手段となる。

結果として

- ・ 登録者全員に**最新の情報が共有化**され、施設同士疎遠傾向が解消される。
ブロック内の組織力が強化されると考える。

次は東北ブロックです！！

第1回 JRCCET 東北ブロック研修会 報告

福島赤十字病院

橋本 健一

1. 開催内容について ①

- 幹事：福島赤十字病院
 - 日時：平成22年10月2日(土)13時～17時
10月3日(日) 9時～12時
 - 会場：福島市振興公社研修施設【福島テルサ】
 - 参加費：\10,000／1人
-

1. 開催内容について ② 1日目

■ 1日目

1. 各施設代表者会議

本研修会の趣旨・意義について
役員選出、次回開催地について

2. 開催挨拶、参加者全員による自己紹介

3. JRC CETとブロック研修会への要望

4. 講演 『当院における医療安全への取り組み』

福島赤十字病院医療安全専任リスクマネージャーより



1. 開催内容について ③ 2日目

■ 2日目

1. 各施設によるプレゼンテーション(6施設)

・プレゼンテーション内容

①病院内におけるCEの位置付け・役割

②業務紹介

③問題点

④CEとして参加している委員会

⑤その他 PRなど

2. 質疑応答

3. 閉会の挨拶



2. 参加人数と年齢

■ 参加人数

福島 3人 ・ 仙台 2人 ・ 石巻 3人

盛岡 2人 ・ 秋田 2人 ・ 八戸 1人

合計 13人

■ 参加者年齢内訳

20歳代 … 5人 30歳代 … 4人

40歳代 … 3人 50歳代 … 1人

3. JRCCETに期待すること

■ ブロック内会員の意見

- ・ 透析回路標準化
- ・ 呼吸器回路標準化
- ・ 点検チェックリストの標準化
- ・ ME点検機器の共同購入
- ・ CEの地位向上(手当てなど)

4. JRCCET全体研修で取り上げてほしいテーマ

- ブロック内会員の意見
- ・ 業務体制カリキュラムについて
（ローテーション制、専任制など・・・）
- ・ 教育カリキュラムについて

5. ブロック研修会を実施しての感想

- 全国で先陣を切って、尚且つ第1回目という事もあり暗中模索状態であったが、事務局・理事の方々、ブロック内会員の意見、病院内他職種の意見を取り入れながら円滑に開催できた。
- 他施設の業務内容・問題点・特色を知ることが出来た。
- 施設によって出張扱いの違い。
- 近くて遠いイメージのあったブロック内他施設が同じ仲間という認識を持つことが出来た。

6. その他・ブロックのピックス

- 研修会時のDVD作成・配布
(一番興味があったセッションのDVDの作成)
- 研修会時の感想文集作成・配布
(各施設1人に感想文を後日提出してもらった)
- 意見交換会の白熱した議論
(夜遅くまで議論・親睦が続いた)

全体集合写真



次は東部ブロックです！！

第1回東部ブロック赤十字病院 臨床工学研修会

平成23年1月22日 15時

武蔵野赤十字病院

山崎記念講堂



武蔵野赤十字病院 臨床工学技術課
時間進行

特別講演

最近の臨床工学技士業務

「ペースメーカー遠隔モニタリング」

バイオエレクトロニクスジャパン株式会社

桐山真樹様

演題発表

1) ABLATION業務

さいたま赤十字病院
中島修先生

2) 透析業務

芳賀赤十字病院
小宅政恵先生

3) 当センターの小児体外循環より

日本赤十字社医療センター
千崎祥一郎先生

参加施設

11施設

津久井赤十字病院(1)・小川赤十字病院(1)・芳賀赤十字病院(1)

横浜市みなと赤十字病院(2)・山梨赤十字病院(2)・水戸赤十字病院(2)

秦野赤十字病院(2)・大田原赤十字病院(3)・さいたま赤十字病院(4)

日本赤十字社医療センター(9)・武蔵野赤十字病院(9)

計36名

日本赤十字社臨床工学技士会に 期待すること！

研修会終了後アンケート

参加者36名 アンケート回収26名

- ・業務の標準化
- ・人事交流の窓口など日赤技士会全体のレベルアップ
- ・研修会やペーパーの発行等、学べる場を増やしてほしい
- ・日本赤十字社臨床工学技士会学術集会の開催
- ・医療機器安全管理責任者の立場の確立
- ・技師長制度
- ・共同研究や取り組み、地位向上、資質の向上
- ・所属部署の統一に向けデータ収集や検討の場
- ・情報交換・共存、横のつながりの強化
- ・新人技士の交流、知識向上
- ・他施設との交流、連携を深める
- ・各施設での業務多様化するMEの役割の明確化と労働環境の整備
- ・自宅待機手当・危険手当等の調査及び調整

日本赤十字社臨床工学技士会 全体研修で取り上げて欲しいテーマ

研修会終了後アンケート

参加者36名 アンケート回収26名

- ・MEの育成
- ・医療系以外の安全管理、人員育成の試み、企画力、プレゼン力などの教育
- ・スタッフ教育の実際、増員につながる業務の工夫
- ・臨床工学技士関連のライセンスなどに対応した講習会の開催
- ・業務指針改定にともない、業種別の研修会の開催
- ・さまざまな業務の勉強会（血液浄化・体外循環・人工呼吸等）
- ・医療安全の各施設の取り組み
- ・他病院での業務内容
- ・他業種とのクロスする業務についての区分
- ・MEの業務内容と労働条件

ブロック研修会を実施しての感想

参加者アンケートより（回答者25名）

A)大変よかった	12人
B)良かった	10人
C)普通	3人
D)良くなかった	0人

- ・非常に勉強に成った
- ・意味深い第一回の研修会だと思います
- ・多くの技士の参加が有り良かったと思う
- ・他施設の業務を知ることができ、大変有意義な研修会となりました
- ・まだ行った事の無い業務の説明が聞けたので大変勉強に成りました
- ・もう少し解りやすい内容でもいいと思った
- ・内容をもっと詳しく
- ・遠隔モニタリングは当院の状況では縁遠い話で有った

ブロック研修会を実施しての感想

研修会開催担当者より

・東部ブロックとして研修会は以前3回行い、内容は外部から

の講演と各施設紹介をおこなっている。

今回の研修会では外部よりの講演と各施設における、業務内容の発表形式で行った。

賛否両論は有ると思われたが、今後入職1年～2年の技士対象に

発表の場を提供できたら良いと、考えこの様な内容で今回は研修会を開催した。(今後検討)

・問題点としては、各施設の連絡をメールにて行ったが返信が無く参加等の確認に手間取ってしまった。

参加費等に関して各施設に御迷惑をかけ施設に対しての御案内が遅れてしまった。(技士会での統一?)

次は中部ブロックです！！

中部ブロック研修会



長野赤十字病院 医療技術部
臨床工学技術課 阿部 秀次

開催内容

第1回 日本赤十字社中部ブロック 臨床工学技士研修会
日時 平成23年1月29日(土) 13時より17時
会場 名古屋第一赤十字病院 会議室

プログラム

13:00~13:00 開会の辞
長野赤十字病院 中部ブロック理事・座長 阿部 秀次

13:10~14:20 教育講演「赤十字の国際援助」
名古屋第二赤十字病院 臨床工学課長
技士会副会長 山田 悌士 様

14:20~15:20 教育講演「全自動透析装置と将来展望」
株式会社 ジェイ・エム・エス
第二営業部 前田 成臣 様

15:20~16:50 情報交換会・名古屋第1赤十字病院内施設見学会
閉会の辞

研修会参加者

施設名

・ 安曇野赤十字病院	1名
・ 飯山赤十字病院	2名
・ 金澤赤十字病院	1名
・ 静岡赤十字病院	1名
・ 裾野赤十字病院	1名
・ 富山赤十字病院	1名
・ 名古屋第一赤十字病院	3名
・ 名古屋第二赤十字病院	5名
・ 長野赤十字病院	2名
・ 浜松赤十字病院	3名
・ 山田赤十字病院	3名

◎ 計11施設 23名
年齢相 50代～20代



ブロック研修会の情報交換会

- ・ 研修会開催致しまして、他施設の技士との横の連携、個々の顔がわかり情報交換等今後の活動がしやすくなった。
- ・ 日本赤十字社臨床工学技士会加入負担金について、各施設間には、大きな隔たりがあり各病院負担は、ごく少数であるため、技士会は本社を通して病院長宛に加入金負担の旨お願い通達を出して頂きたい。
- ・ 各施設の出張費規定の違いにより研修会開催にも大きな影響がある。
- ・ 標準化透析回路のアンケートの方法、案内等に問題点が多かった。

次は近畿ブロックです！！

各ブロック研修会からの報告

近畿ブロック

日本赤十字社臨床工学技士会
第1回近畿ブロック研修会

近畿ブロック理事
大阪赤十字病院 佐上 善昭

第2回 JRCGET 全国研修会

近畿ブロック研修会 開催地

都道府県持回り



第2回 JRCGET 全国研修会

研修会概要

日時 平成23年2月12日(土)14:00 ~

13日

場所 (日)11:30

大阪赤十字病院 講堂

会費 ホテル アウイーナ大阪

内容 15,000円(研修会参加費および宿泊費)

各施設紹介・討論会

講演4題

人数 施設代表者会議

29名

第2回JRCOET全国研修会

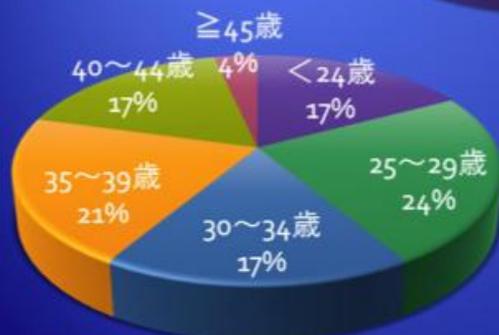
参加者内訳

都道府県	施設名	参加人数	宿泊
京都府	京都第一赤十字病院	1	有
	京都第二赤十字病院	4	有
滋賀県	大津赤十字病院	2	有
	長浜赤十字病院	2	有
和歌山県	日本赤十字社和歌山医療センター	2	有
兵庫県	姫路赤十字病院	2	有
	神戸赤十字病院	1	無
大阪府	高槻赤十字病院	2	有
	大阪赤十字病院	13	有・無
計	9施設	29	有:18 無:11

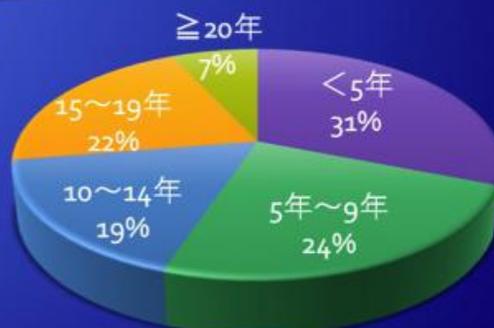
第2回JRCOET全国研修会

参加者内訳

男女比 男性:24 女性:5



参加者年齢 平均:33歳



経験年数 平均:10年

第2回 JRCET 全国研修会

プログラム

1日目 平成23年2月12日(土)14:00 ~ 20:30

会場:大阪赤十字病院(4階 講堂)

13:00 受付開始

14:00 開会挨拶

近畿ブロック理事 佐上 善昭

大阪赤十字病院 副院長・医療技術部長 藤堂 義郎 先生

14:10~15:00 講演1「大阪赤十字病院における医療安全管理の現状」

大阪赤十字病院 副院長・医療安全推進室長 藤堂 義郎 先生

15:10~17:00 シンポジウム 各施設紹介・討論会「各施設における現状と課題」

各施設代表者

17:00 施設代表者連絡会議(各施設代表者様のみ対象)

会場移動

会場:ホテル アウリーナ大阪(4階 マーガレットの間)

18:10~20:30 イブニングセミナー

特別講演「最新の不整脈治療」

~アブレーションから各種デバイスまで~

大阪赤十字病院 不整脈科部長 牧田 俊則 先生

第2回 JRCET 全国研修会

プログラム

2日目 2月13日(日)

会場:大阪赤十字病院(4階 講堂)9:00 ~ 11:30

8:30

受付開始

9:00

ブロック理事報告

近畿ブロック理事 佐上 善昭

9:20~10:20

講演2「大地震時における赤十字病院の連携を考える」

～透析施設での対応を中心に～

姫路赤十字病院 三井 友成 先生

10:30~11:30

講演3「東南アジア透析の旅」

大阪赤十字病院 腎臓内科 渡瀬 謙仁 先生

11:30

閉会

11:30~12:00

施設見学

第2回JRCOET全国研修会

シンポジウム

各施設紹介・討論会

「各施設における現状と課題」

施設紹介内容

- ・病院概要
- ・所属部署、人数
- ・人員配置(チーム制、固定制、ローテーション制など)
- ・業務内容
- ・緊急体制(オンコール、当直制など)
- ・臨床工学技士として参加している院内の委員会
- ・その他(各施設の特色、自慢、課題など)

主な討論内容

- ・各施設の出張規定について
- ・ゼネラリスト vs スペシャリスト



第2回JRCOET全国研修会

イブニングセミナー

特別講演「最新の不整脈治療」

～アブレーションから各種デバイスまで～

大阪赤十字病院 不整脈科部長 牧田 俊則 先生



日本赤十字社臨床工学技士会に 期待すること

- 施設間での見学や研修が簡単にできるシステムを作ってほしい
(手続きの簡素化)
- 臨床工学技士にも人事交流ができるような環境を作ってほしい
- 情報交換
- 施設により出張費や手当など待遇面で差があるので、その辺を
本社との懸け橋になってほしい
- 費用負担を各施設へもっと要請してほしい
- 勤務体制を整えてほしい
- 臨床工学技士の地位の向上

近畿ブロック アンケート結果より

研修で取り上げてほしいテーマ

- 災害時における臨床工学技士の役割
- 新人教育について
- RSTを始めた施設の具体的なノウハウを教えてください
- 医療安全に対する具体的な取り組みを紹介してもらい自施設でも取り入れたい
- 各施設の新しい業務への取り組み
- 日直・当直の必要性
- 接遇
- 今回、近畿ブロックで討論されたゼネラリスト vs スペシャリストの全国の考えを知りたい

近畿ブロック アンケート結果より

第2回 JRCOET 全国研修会

ブロック研修会の感想

- 他施設の業務内容・課題等が大変参考になった
- 近畿の日赤臨床工学技士が初めて一同に会せてよかった
- 横のつながりができ、今後の情報交換がやりやすくなった
- たくさんの人と交流が持ててよかった
- 懇親会・二次会がとても楽しかった
- とても有意義な時間を過ごせた、勉強になった
- 赤十字の結束力を感じた
- どこも困っていることは一緒だなと感じた

近畿ブロック アンケート結果より

次は中国・四国ブロックです！！

日本赤十字社臨床工学技士会 中四国ブロック研修会報告

広島赤十字・原爆病院 医療技術部 臨床工学課
松島安幸

内 容



開催日時 平成23年2月19日(土)

10:00~15:00

開催場所 広島赤十字・原爆病院
別館3階講堂

参加施設

- 徳島赤十字病院 2名
- 三原赤十字病院 2名
- 高松赤十字病院 3名
- 益田赤十字病院 1名
- 岡山赤十字病院 1名
- 山口赤十字病院 3名
- 鳥取赤十字病院 1名
- 庄原赤十字病院 3名
- 松山赤十字病院 2名
- 高知赤十字病院 1名
- 松江赤十字病院 4名
- 広島赤十字・原爆病院 7名

全施設参加 30名

プログラム

- 10:00 開催挨拶 広島赤十字・原爆病院 院長 土肥博雄
- 10:05
～ 施設紹介 12施設（10分から15分）
- 13:10
13:10 閉会挨拶 広島赤十字・原爆病院 医療技術部長 山本昌弘
- 13:15
～ 意見交換会 全員参加
- 15:00



意見交換会

- 全施設の施設紹介が出来たので、一定の透明性は図れたと思われます。
- 各施設の処遇(手当・組織形態)等の問題を日本赤十字社臨床工学技士会として取り組みに期待したい。
- 今後の研修会で業務量・質に関連した発表・討議を行ってほしい。
- 点検機器の個別勉強会(実技)等を具体的に実施してほしい。
- 医療安全関連の取り組みを課題にあげてほしい。
- ブロック研修会の持ち回り・ブロック事務局設置等の討議をして頂きたい。

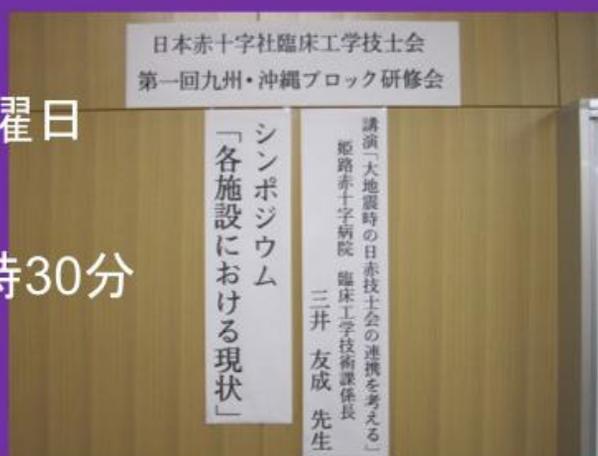
次は九州・沖縄ブロックです！！

九州・沖縄ブロック研修会報告

九州沖縄ブロック担当
大分赤十字病院
光武 徹

開催場所及び日時

- **開催場所**
大分赤十字病院 大会議室
- **開催日**
2011年2月5日土曜日
- **時間**
14時30分から17時30分



研修会内容

- 講演「大地震時の日赤技士会の連携を考える」
姫路赤十字病院 三井 友成氏
- シンポジウム「各施設における現状」
福岡、唐津、長崎、熊本、鹿児島、大分の
各施設代表者
- 施設代表者連絡会議



参加施設

参加施設名	参加人数
福岡	1
唐津	1
長崎	3
熊本	2
鹿児島	1
大分	3(勤務後参加3名)
合計	11(3)

アンケート結果

質問	回答
年齢(歳)	37.2±12.0
勤務年数(年)	15.2±12.2
日赤臨床工学技士会(JRCCET)に期待すること	勉強会、問題点の解決、他病院との連携各及び情報交換、会員の意見を反映し、協力する。また正当な意見であれば本社への投げ掛けをお願いしたい。
JRCCETで取り上げてほしいテーマ	ペースメーカー操作研修会(プログラマ、アナライザ)、組織の確立、地位向上、院内委員会の参加、急性期血液浄化療法(CRRT)の現状、整形外科とMEの関わり、臨床工学技士の医療安全対策の具体的取り組み。
ブロック研修会の感想	MEの立場を向上させるためにもこのような研修会に積極的に参加したい。災害時の被害、対応などシュミレーションを通して、具体的な活動内容が理解できて勉強になりました。継続、発展させて下さい。予算面でJRCCET、病院の補助はあるのか？参加できてよかった。九州地区の方々と交流が出来、有意義でした。今後も各技士及び病院の発展に繋がるように協力し継続していきたい。
その他	

今後の開催について

- 九州ブロックスポーツ大会の当番病院がその年度の研修会を行うこととなった。
- その開催は熊本→唐津→長崎→大分→福岡の順番でおこなうことに決定した。
- 開催時期は当番の病院が決定することとした。
- 来年は熊本で開催予定となった。

反省点

- 開催が1日のみであったため宿泊費が出なかった。
- 研修会費の設定の前例がなく、各ブロック間に違いがあり、苦慮した。
- 調整に時間がかかり、準備に時間がかかってしまった。

感想

- 病院の理解度(ME業務)などに差がある。
 - 出張の回数や病院の待遇の違いがあった。
 - 人数が少ないので相談できる適切な人物がいない。
- 以上の点からこの様なブロック研修会を通じて病院間で問題点を共有し、改善点を病院に求めていく事が技士会の存在意義のひとつであると再認識できた。



皆様お疲れ様でした！！



+ **JRCCET**

日本赤十字社臨床工学技士会

編集発行：日本赤十字社臨床工学技士会
IT/広報委員会：脇田、好井、熊谷、平岡
事務局：皆川

事務局：〒231-0682
横浜市中区新山下3-12-1
横浜市立みなと赤十字病院 MEセンター内
TEL:045-628-6100

がんばろう日本

がんばろう東日本

がんばろう東北

日本赤十字社臨床工学技士会ホームページ <http://jrccet.umin.jp/>